

# シラバス

(言語文化教育研究領域科目)

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：嘉納 英明			
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：kano@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1233			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー		
4	1	通年	3	研 510	火 3、木 3		
<p>1. 授業の概要</p> <p>①修士論文のテーマを設定し、そのテーマに関係する先行研究（文献）を集め、分析的に読む。 ②研究方法の検討と確定、資料収集を進める。 ③主にディスカッションを通して、論文全体の構想をつくり、修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>①研究テーマを決定する。 ②テーマに関する資料を収集し、分析方法を決定する。 ③修士論文の概要を作成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(前期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 学術論文とは何か 第 3 週 修士論文とは何か 第 4 週 研究テーマの定め方① 第 5 週 研究テーマの定め方② 第 6 週 テーマの絞り方① 第 7 週 テーマの絞り方② 第 8 週 文献探索指導① 第 9 週 文献探索指導② 第 10 週 文献探索指導③ 第 11 週 テーマの決定 第 12 週 研究方法の決定 第 13 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成 第 14 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成（序論） 第 15 週 テーマ発表の準備</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(後期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 修士論文テーマ発表会のふりかえり 第 3 週 文献研究の発表① 第 4 週 文献研究の発表② 第 5 週 資料収集方法の検討 第 6 週 資料収集方法の決定 第 7 週 資料収集の報告① 第 8 週 資料収集の報告② 第 9 週 文献研究の発表③ 第 10 週 文献研究の発表④ 第 11 週 資料収集と分析 a 第 12 週 資料収集と分析 b 第 13 週 資料収集と分析 c 第 14 週 1年次発表の準備① 第 15 週 1年次発表の準備②</p> </td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献 随時指定。</p> <p>5. 準備学習 事前に演習で報告する課題を指導教員に提出する。</p> <p>6. 成績評価の方法 リサーチ・プロポーザル、ゼミへの取り組みで評価します。</p> <p>7. 履修の条件 事前に、研究関心やテーマについて指導教員と相談をしておく。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						<p>(前期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 学術論文とは何か 第 3 週 修士論文とは何か 第 4 週 研究テーマの定め方① 第 5 週 研究テーマの定め方② 第 6 週 テーマの絞り方① 第 7 週 テーマの絞り方② 第 8 週 文献探索指導① 第 9 週 文献探索指導② 第 10 週 文献探索指導③ 第 11 週 テーマの決定 第 12 週 研究方法の決定 第 13 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成 第 14 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成（序論） 第 15 週 テーマ発表の準備</p>	<p>(後期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 修士論文テーマ発表会のふりかえり 第 3 週 文献研究の発表① 第 4 週 文献研究の発表② 第 5 週 資料収集方法の検討 第 6 週 資料収集方法の決定 第 7 週 資料収集の報告① 第 8 週 資料収集の報告② 第 9 週 文献研究の発表③ 第 10 週 文献研究の発表④ 第 11 週 資料収集と分析 a 第 12 週 資料収集と分析 b 第 13 週 資料収集と分析 c 第 14 週 1年次発表の準備① 第 15 週 1年次発表の準備②</p>
<p>(前期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 学術論文とは何か 第 3 週 修士論文とは何か 第 4 週 研究テーマの定め方① 第 5 週 研究テーマの定め方② 第 6 週 テーマの絞り方① 第 7 週 テーマの絞り方② 第 8 週 文献探索指導① 第 9 週 文献探索指導② 第 10 週 文献探索指導③ 第 11 週 テーマの決定 第 12 週 研究方法の決定 第 13 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成 第 14 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成（序論） 第 15 週 テーマ発表の準備</p>	<p>(後期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 修士論文テーマ発表会のふりかえり 第 3 週 文献研究の発表① 第 4 週 文献研究の発表② 第 5 週 資料収集方法の検討 第 6 週 資料収集方法の決定 第 7 週 資料収集の報告① 第 8 週 資料収集の報告② 第 9 週 文献研究の発表③ 第 10 週 文献研究の発表④ 第 11 週 資料収集と分析 a 第 12 週 資料収集と分析 b 第 13 週 資料収集と分析 c 第 14 週 1年次発表の準備① 第 15 週 1年次発表の準備②</p>						

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：渡慶次 正則																																																																	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235																																																																	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																																																
2	1	通年	5	研 512	月曜日 6 時限																																																																
<p>1. 授業の概要 研究テーマを決定し、実証的データを収集できるようにする。修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。</p> <p>2. 到達目標 (1) 研究テーマを決定する。 (2) データの収集方法と分析方法を決定する。 (3) 修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に十分に備える。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr> <td colspan="2">(前期)</td> <td colspan="2">(後期)</td> </tr> <tr> <td>第1週</td> <td>オリエンテーション</td> <td>第1週</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>リサーチの種類や果たす役割や重要性について テーマについて考える</td> <td>第2週</td> <td>文献研究の発表 (1)</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>リサーチ・デザインについて</td> <td>第3週</td> <td>文献研究の発表 (2)</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>質的研究について (1)</td> <td>第4週</td> <td>データ収集方法の検討</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>質的研究について (2)</td> <td>第5週</td> <td>データ収集方法の決定</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>量的研究について (1)</td> <td>第6週</td> <td>データ収集の準備</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>量的研究について (2)</td> <td>第7週</td> <td>データ収集と倫理</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>テーマの選択について</td> <td>第8週</td> <td>文献発表 (3)</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>テーマの決定</td> <td>第9週</td> <td>文献発表 (4)</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>リサーチ・プロポーザル下書き(データ収集方法)</td> <td>第10週</td> <td>文献発表 (5)</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>リサーチ・プロポーザル下書き作成 (データ分析方法)</td> <td>第11週</td> <td>データ収集</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献)</td> <td>第12週</td> <td>データ収集</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献)</td> <td>第13週</td> <td>データ収集</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>リサーチ・プロポーザル下書き作成 (序論)</td> <td>第14週</td> <td>データ収集</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>リサーチ・プロポーザル下書き完成、テーマ発表の準備</td> <td>第15週</td> <td>1年次発表の準備と評価</td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 特になし。 【参考文献】 随時指定</p> <p>5. 準備学習 事前に演習で発表する課題を指導教員に送付する。</p> <p>6. 成績評価の方法 リサーチ・プロポーザルやゼミへの取り組みで評価。</p> <p>7. 履修の条件 事前に研究テーマについて概ね指導教員と相談をしておく。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						(前期)		(後期)		第1週	オリエンテーション	第1週	オリエンテーション	第2週	リサーチの種類や果たす役割や重要性について テーマについて考える	第2週	文献研究の発表 (1)	第3週	リサーチ・デザインについて	第3週	文献研究の発表 (2)	第4週	質的研究について (1)	第4週	データ収集方法の検討	第5週	質的研究について (2)	第5週	データ収集方法の決定	第6週	量的研究について (1)	第6週	データ収集の準備	第7週	量的研究について (2)	第7週	データ収集と倫理	第8週	テーマの選択について	第8週	文献発表 (3)	第9週	テーマの決定	第9週	文献発表 (4)	第10週	リサーチ・プロポーザル下書き(データ収集方法)	第10週	文献発表 (5)	第11週	リサーチ・プロポーザル下書き作成 (データ分析方法)	第11週	データ収集	第12週	リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献)	第12週	データ収集	第13週	リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献)	第13週	データ収集	第14週	リサーチ・プロポーザル下書き作成 (序論)	第14週	データ収集	第15週	リサーチ・プロポーザル下書き完成、テーマ発表の準備	第15週	1年次発表の準備と評価
(前期)		(後期)																																																																			
第1週	オリエンテーション	第1週	オリエンテーション																																																																		
第2週	リサーチの種類や果たす役割や重要性について テーマについて考える	第2週	文献研究の発表 (1)																																																																		
第3週	リサーチ・デザインについて	第3週	文献研究の発表 (2)																																																																		
第4週	質的研究について (1)	第4週	データ収集方法の検討																																																																		
第5週	質的研究について (2)	第5週	データ収集方法の決定																																																																		
第6週	量的研究について (1)	第6週	データ収集の準備																																																																		
第7週	量的研究について (2)	第7週	データ収集と倫理																																																																		
第8週	テーマの選択について	第8週	文献発表 (3)																																																																		
第9週	テーマの決定	第9週	文献発表 (4)																																																																		
第10週	リサーチ・プロポーザル下書き(データ収集方法)	第10週	文献発表 (5)																																																																		
第11週	リサーチ・プロポーザル下書き作成 (データ分析方法)	第11週	データ収集																																																																		
第12週	リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献)	第12週	データ収集																																																																		
第13週	リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献)	第13週	データ収集																																																																		
第14週	リサーチ・プロポーザル下書き作成 (序論)	第14週	データ収集																																																																		
第15週	リサーチ・プロポーザル下書き完成、テーマ発表の準備	第15週	1年次発表の準備と評価																																																																		

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：小番 達																																	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：t.kotsugai@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1212																																	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー																																
4	1	通年	2	研 504	火曜日 4 時限、木曜日 4 時限																																
<p>1. 授業の概要          修士論文のテーマを設定し、これに基づいて作品を考察し、先行研究を体系的、分析的に読み解く。また、ディスカッションを通し、論文執筆へ向けて研究の深化を図る。</p> <p>2. 到達目標          研究テーマを確定し、修士論文の概要を作成する。また、作品本文・関連資料（資料）の正確な読み方、先行する論考に対する批判的な読み方に習熟する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;"><b>前学期</b></td> <td style="text-align: center;"><b>後学期</b></td> </tr> <tr> <td>第 1 週 オリエンテーション（研究倫理の確認も含む）</td> <td>第 1 週 オリエンテーション（前学期の振り返り）</td> </tr> <tr> <td>第 2 週 論文テーマの検討（1）</td> <td>第 2 週 論文テーマの再検討（1）</td> </tr> <tr> <td>第 3 週 論文テーマの検討（2）</td> <td>第 3 週 論文テーマの再検討（2）</td> </tr> <tr> <td>第 4 週 研究計画の作成（1）</td> <td>第 4 週 研究報告とその検討（1）</td> </tr> <tr> <td>第 5 週 研究計画の作成（2）</td> <td>第 5 週 研究報告とその検討（2）</td> </tr> <tr> <td>第 6 週 本文・資料の収集・分析について（1）</td> <td>第 6 週 研究報告とその検討（3）</td> </tr> <tr> <td>第 7 週 本文・資料の収集・分析について（2）</td> <td>第 7 週 研究報告とその検討（4）</td> </tr> <tr> <td>第 8 週 本文・資料の収集・分析について（3）</td> <td>第 8 週 研究報告とその検討（5）</td> </tr> <tr> <td>第 9 週 本文・資料の収集・分析について（4）</td> <td>第 9 週 研究報告とその検討（6）</td> </tr> <tr> <td>第 10 週 先行研究の検討について（1）</td> <td>第 10 週 研究報告とその検討（7）</td> </tr> <tr> <td>第 11 週 先行研究の検討について（2）</td> <td>第 11 週 研究報告とその検討（8）</td> </tr> <tr> <td>第 12 週 先行研究の検討について（3）</td> <td>第 12 週 研究計画の再検討（1）</td> </tr> <tr> <td>第 13 週 先行研究の検討について（4）</td> <td>第 13 週 研究計画の再検討（2）</td> </tr> <tr> <td>第 14 週 テーマ発表の準備（1）</td> <td>第 14 週 概要報告の準備（1）</td> </tr> <tr> <td>第 15 週 テーマ発表の準備（2）</td> <td>第 15 週 概要報告の準備（2）</td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献          【テキスト】授業において指示・紹介する。          【参考文献】授業において適宜紹介する。</p> <p>5. 準備学習          課題に対する報告の準備を確実にを行う。</p> <p>6. 成績評価の方法          報 告 40 点          レポート 60 点            合計 100 点</p> <p>7. 履修の条件          特になし。</p> <p>8. その他          特になし。</p>						<b>前学期</b>	<b>後学期</b>	第 1 週 オリエンテーション（研究倫理の確認も含む）	第 1 週 オリエンテーション（前学期の振り返り）	第 2 週 論文テーマの検討（1）	第 2 週 論文テーマの再検討（1）	第 3 週 論文テーマの検討（2）	第 3 週 論文テーマの再検討（2）	第 4 週 研究計画の作成（1）	第 4 週 研究報告とその検討（1）	第 5 週 研究計画の作成（2）	第 5 週 研究報告とその検討（2）	第 6 週 本文・資料の収集・分析について（1）	第 6 週 研究報告とその検討（3）	第 7 週 本文・資料の収集・分析について（2）	第 7 週 研究報告とその検討（4）	第 8 週 本文・資料の収集・分析について（3）	第 8 週 研究報告とその検討（5）	第 9 週 本文・資料の収集・分析について（4）	第 9 週 研究報告とその検討（6）	第 10 週 先行研究の検討について（1）	第 10 週 研究報告とその検討（7）	第 11 週 先行研究の検討について（2）	第 11 週 研究報告とその検討（8）	第 12 週 先行研究の検討について（3）	第 12 週 研究計画の再検討（1）	第 13 週 先行研究の検討について（4）	第 13 週 研究計画の再検討（2）	第 14 週 テーマ発表の準備（1）	第 14 週 概要報告の準備（1）	第 15 週 テーマ発表の準備（2）	第 15 週 概要報告の準備（2）
<b>前学期</b>	<b>後学期</b>																																				
第 1 週 オリエンテーション（研究倫理の確認も含む）	第 1 週 オリエンテーション（前学期の振り返り）																																				
第 2 週 論文テーマの検討（1）	第 2 週 論文テーマの再検討（1）																																				
第 3 週 論文テーマの検討（2）	第 3 週 論文テーマの再検討（2）																																				
第 4 週 研究計画の作成（1）	第 4 週 研究報告とその検討（1）																																				
第 5 週 研究計画の作成（2）	第 5 週 研究報告とその検討（2）																																				
第 6 週 本文・資料の収集・分析について（1）	第 6 週 研究報告とその検討（3）																																				
第 7 週 本文・資料の収集・分析について（2）	第 7 週 研究報告とその検討（4）																																				
第 8 週 本文・資料の収集・分析について（3）	第 8 週 研究報告とその検討（5）																																				
第 9 週 本文・資料の収集・分析について（4）	第 9 週 研究報告とその検討（6）																																				
第 10 週 先行研究の検討について（1）	第 10 週 研究報告とその検討（7）																																				
第 11 週 先行研究の検討について（2）	第 11 週 研究報告とその検討（8）																																				
第 12 週 先行研究の検討について（3）	第 12 週 研究計画の再検討（1）																																				
第 13 週 先行研究の検討について（4）	第 13 週 研究計画の再検討（2）																																				
第 14 週 テーマ発表の準備（1）	第 14 週 概要報告の準備（1）																																				
第 15 週 テーマ発表の準備（2）	第 15 週 概要報告の準備（2）																																				

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：小嶋 洋輔																																	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：y.kojima@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1092																																	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー																																
4	1	通年		415	月曜日 3 時限、火曜日 3 時限																																
<p>1. 授業の概要</p> <p>①学生が目指す研究の全体像を客観化し、その上で修士論文のテーマを設定する。</p> <p>②修士論文のテーマに関係する先行研究を集め、分析的に読む。</p> <p>③テーマに関係する作家、文学作品を改めて選定、網羅的に読む。関連する理論、関連分野の先行研究についても把握し、網羅的に読む。</p> <p>④主にディスカッションを通して、論文全体の構想を作り、修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>①テーマの確定を行い、その上で、そのテーマについて今の自分が何をすることが可能か把握する。</p> <p>②テーマに関連する文献は、出来る限り集め、読む。</p> <p>③修士論文の概要を作成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">前学期</th> <th style="text-align: left;">後学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 週 オリエンテーション</td> <td>第 1 週 オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第 2 週 文学を「研究」すること①</td> <td>第 2 週 関連分野の研究①</td> </tr> <tr> <td>第 3 週 文学を「研究」すること②</td> <td>第 3 週 関連分野の研究②</td> </tr> <tr> <td>第 4 週 文学を「研究」すること③</td> <td>第 4 週 関連分野の研究③</td> </tr> <tr> <td>第 5 週 文学を「研究」すること④</td> <td>第 5 週 関連分野の研究④</td> </tr> <tr> <td>第 6 週 文学を「研究」すること⑤</td> <td>第 6 週 関連分野の研究⑤</td> </tr> <tr> <td>第 7 週 資料収集とその概括①</td> <td>第 7 週 関連分野の研究⑥</td> </tr> <tr> <td>第 8 週 資料収集とその概括②</td> <td>第 8 週 関連分野の研究⑦</td> </tr> <tr> <td>第 9 週 資料収集とその概括③</td> <td>第 9 週 テーマの絞り込み①</td> </tr> <tr> <td>第 10 週 資料収集とその概括④</td> <td>第 10 週 テーマの絞り込み②</td> </tr> <tr> <td>第 11 週 資料収集とその概括⑤</td> <td>第 11 週 テーマの絞り込み③</td> </tr> <tr> <td>第 12 週 テーマの決定（研究倫理に関する説明）</td> <td>第 12 週 テーマの絞り込み④</td> </tr> <tr> <td>第 13 週 テーマに関する発表①</td> <td>第 13 週 テーマの絞り込み⑤</td> </tr> <tr> <td>第 14 週 テーマに関する発表②</td> <td>第 14 週 1年次発表の準備</td> </tr> <tr> <td>第 15 週 テーマ発表会の準備③</td> <td>第 15 週 1年次発表の準備</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献 随時指定する。</p> <p>5. 準備学習 毎回発表を課すため、その準備がいわゆる準備学習と言える。</p> <p>6. 成績評価の方法 毎回の発表を総合的に評価する。</p> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						前学期	後学期	第 1 週 オリエンテーション	第 1 週 オリエンテーション	第 2 週 文学を「研究」すること①	第 2 週 関連分野の研究①	第 3 週 文学を「研究」すること②	第 3 週 関連分野の研究②	第 4 週 文学を「研究」すること③	第 4 週 関連分野の研究③	第 5 週 文学を「研究」すること④	第 5 週 関連分野の研究④	第 6 週 文学を「研究」すること⑤	第 6 週 関連分野の研究⑤	第 7 週 資料収集とその概括①	第 7 週 関連分野の研究⑥	第 8 週 資料収集とその概括②	第 8 週 関連分野の研究⑦	第 9 週 資料収集とその概括③	第 9 週 テーマの絞り込み①	第 10 週 資料収集とその概括④	第 10 週 テーマの絞り込み②	第 11 週 資料収集とその概括⑤	第 11 週 テーマの絞り込み③	第 12 週 テーマの決定（研究倫理に関する説明）	第 12 週 テーマの絞り込み④	第 13 週 テーマに関する発表①	第 13 週 テーマの絞り込み⑤	第 14 週 テーマに関する発表②	第 14 週 1年次発表の準備	第 15 週 テーマ発表会の準備③	第 15 週 1年次発表の準備
前学期	後学期																																				
第 1 週 オリエンテーション	第 1 週 オリエンテーション																																				
第 2 週 文学を「研究」すること①	第 2 週 関連分野の研究①																																				
第 3 週 文学を「研究」すること②	第 3 週 関連分野の研究②																																				
第 4 週 文学を「研究」すること③	第 4 週 関連分野の研究③																																				
第 5 週 文学を「研究」すること④	第 5 週 関連分野の研究④																																				
第 6 週 文学を「研究」すること⑤	第 6 週 関連分野の研究⑤																																				
第 7 週 資料収集とその概括①	第 7 週 関連分野の研究⑥																																				
第 8 週 資料収集とその概括②	第 8 週 関連分野の研究⑦																																				
第 9 週 資料収集とその概括③	第 9 週 テーマの絞り込み①																																				
第 10 週 資料収集とその概括④	第 10 週 テーマの絞り込み②																																				
第 11 週 資料収集とその概括⑤	第 11 週 テーマの絞り込み③																																				
第 12 週 テーマの決定（研究倫理に関する説明）	第 12 週 テーマの絞り込み④																																				
第 13 週 テーマに関する発表①	第 13 週 テーマの絞り込み⑤																																				
第 14 週 テーマに関する発表②	第 14 週 1年次発表の準備																																				
第 15 週 テーマ発表会の準備③	第 15 週 1年次発表の準備																																				

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：照屋 理																																							
科目名 (英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：m.teruya@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1231																																							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー																																						
4	1	通年	2	508	火曜日 1 時限、木曜日 1 時限																																						
<p>1. 授業の概要</p> <p>琉球文化圏（奄美～八重山諸島）における民俗（染織、住環境、食文化等）、文学（伝説、昔話、歌謡、呪文等）、言語（琉球語・方言。特に歌謡語）、芸能（琉球芸能、組踊、沖縄芝居等）事象を対象とした研究指導を行う。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>修士論文執筆のための基盤整備（先行研究確認および批判的アプローチの検討・選定など）を目標とする。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">前学期</th> <th style="text-align: left;">後学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 週 概要説明および研究計画の検討</td> <td>第 1 週 夏季休暇フィールドワーク報告 1</td> </tr> <tr> <td>第 2 週 研究計画の修正、検討</td> <td>第 2 週 夏季休暇フィールドワーク報告 2</td> </tr> <tr> <td>第 3 週 文献資料輪読 1</td> <td>第 3 週 夏季休暇フィールドワーク報告 3</td> </tr> <tr> <td>第 4 週 文献資料輪読 2</td> <td>第 4 週 フィールドワーク・文献比較分析 1</td> </tr> <tr> <td>第 5 週 文献資料輪読 3</td> <td>第 5 週 フィールドワーク・文献比較分析 2</td> </tr> <tr> <td>第 6 週 文献資料輪読 4</td> <td>第 6 週 フィールドワーク・文献比較分析 3</td> </tr> <tr> <td>第 7 週 文献資料輪読 5</td> <td>第 7 週 フィールドワーク・文献比較分析 4</td> </tr> <tr> <td>第 8 週 文献資料輪読 6</td> <td>第 8 週 フィールドワーク・文献比較分析 5</td> </tr> <tr> <td>第 9 週 文献資料輪読 7</td> <td>第 9 週 分析結果ゼミ内発表・質疑 1</td> </tr> <tr> <td>第 10 週 文献資料輪読 8</td> <td>第 10 週 分析結果ゼミ内発表・質疑 2</td> </tr> <tr> <td>第 11 週 夏季休暇フィールドワーク計画 1</td> <td>第 11 週 分析結果ゼミ内発表・質疑 3</td> </tr> <tr> <td>第 12 週 夏季休暇フィールドワーク計画 2</td> <td>第 12 週 分析結果ゼミ内発表・質疑 4</td> </tr> <tr> <td>第 13 週 夏季休暇フィールドワーク計画 3</td> <td>第 13 週 分析結果ゼミ内発表・質疑 5</td> </tr> <tr> <td>第 14 週 夏季休暇フィールドワーク計画 4</td> <td>第 14 週 春季休暇および次年度研究計画 1</td> </tr> <tr> <td>第 15 週 夏季休暇フィールドワーク計画 5</td> <td>第 15 週 春季休暇および次年度研究計画 2</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】特になし。</p> <p>【参考文献】①『東アジアの歌と文字』（2021年，勉誠出版） ②『琉球諸語と文化の未来』（2021年，岩波書店） ③『新編 沖縄の文学』（2008，沖縄時事出版）</p> <p>5. 準備学習</p> <p>普段から琉球・沖縄文化とは何か、その普遍性とは具体的にどんなものか等について考えることが望ましい。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>レポート</td> <td>50 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>発表</td> <td>50 点</td> <td>合計 100 点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						前学期	後学期	第 1 週 概要説明および研究計画の検討	第 1 週 夏季休暇フィールドワーク報告 1	第 2 週 研究計画の修正、検討	第 2 週 夏季休暇フィールドワーク報告 2	第 3 週 文献資料輪読 1	第 3 週 夏季休暇フィールドワーク報告 3	第 4 週 文献資料輪読 2	第 4 週 フィールドワーク・文献比較分析 1	第 5 週 文献資料輪読 3	第 5 週 フィールドワーク・文献比較分析 2	第 6 週 文献資料輪読 4	第 6 週 フィールドワーク・文献比較分析 3	第 7 週 文献資料輪読 5	第 7 週 フィールドワーク・文献比較分析 4	第 8 週 文献資料輪読 6	第 8 週 フィールドワーク・文献比較分析 5	第 9 週 文献資料輪読 7	第 9 週 分析結果ゼミ内発表・質疑 1	第 10 週 文献資料輪読 8	第 10 週 分析結果ゼミ内発表・質疑 2	第 11 週 夏季休暇フィールドワーク計画 1	第 11 週 分析結果ゼミ内発表・質疑 3	第 12 週 夏季休暇フィールドワーク計画 2	第 12 週 分析結果ゼミ内発表・質疑 4	第 13 週 夏季休暇フィールドワーク計画 3	第 13 週 分析結果ゼミ内発表・質疑 5	第 14 週 夏季休暇フィールドワーク計画 4	第 14 週 春季休暇および次年度研究計画 1	第 15 週 夏季休暇フィールドワーク計画 5	第 15 週 春季休暇および次年度研究計画 2	レポート	50 点		発表	50 点	合計 100 点
前学期	後学期																																										
第 1 週 概要説明および研究計画の検討	第 1 週 夏季休暇フィールドワーク報告 1																																										
第 2 週 研究計画の修正、検討	第 2 週 夏季休暇フィールドワーク報告 2																																										
第 3 週 文献資料輪読 1	第 3 週 夏季休暇フィールドワーク報告 3																																										
第 4 週 文献資料輪読 2	第 4 週 フィールドワーク・文献比較分析 1																																										
第 5 週 文献資料輪読 3	第 5 週 フィールドワーク・文献比較分析 2																																										
第 6 週 文献資料輪読 4	第 6 週 フィールドワーク・文献比較分析 3																																										
第 7 週 文献資料輪読 5	第 7 週 フィールドワーク・文献比較分析 4																																										
第 8 週 文献資料輪読 6	第 8 週 フィールドワーク・文献比較分析 5																																										
第 9 週 文献資料輪読 7	第 9 週 分析結果ゼミ内発表・質疑 1																																										
第 10 週 文献資料輪読 8	第 10 週 分析結果ゼミ内発表・質疑 2																																										
第 11 週 夏季休暇フィールドワーク計画 1	第 11 週 分析結果ゼミ内発表・質疑 3																																										
第 12 週 夏季休暇フィールドワーク計画 2	第 12 週 分析結果ゼミ内発表・質疑 4																																										
第 13 週 夏季休暇フィールドワーク計画 3	第 13 週 分析結果ゼミ内発表・質疑 5																																										
第 14 週 夏季休暇フィールドワーク計画 4	第 14 週 春季休暇および次年度研究計画 1																																										
第 15 週 夏季休暇フィールドワーク計画 5	第 15 週 春季休暇および次年度研究計画 2																																										
レポート	50 点																																										
発表	50 点	合計 100 点																																									

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：屋良 健一郎																																	
科目名 (英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：k.yara@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1211																																	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー																																
4	1	通年	2	402	火曜日 4 時限、木曜日 3 時限																																
<p>1. 授業の概要</p> <p>歴史学の修士論文を書くためには史料の収集・読解は不可欠である。史料を読む力を身につけるために、この演習では、日本史・琉球史の史料の講読を行う。また、先行研究を読むことで、歴史学の論文がどういふものかを理解し、論文の書き方を学ぶ。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>①史料の読解力を身につける。 ②先行研究を収集・分析し、批判する力を身につける。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">前学期</th> <th style="text-align: center;">後学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>第 1 週 オリエンテーション</td><td>第 1 週 オリエンテーション</td></tr> <tr><td>第 2 週 史料とは</td><td>第 2 週 歴史学の論文の書き方</td></tr> <tr><td>第 3 週 歴史関係のデータベース</td><td>第 3 週 史料を読む①</td></tr> <tr><td>第 4 週 史料を読む①</td><td>第 4 週 史料を読む②</td></tr> <tr><td>第 5 週 史料を読む②</td><td>第 5 週 史料を読む③</td></tr> <tr><td>第 6 週 史料を読む③</td><td>第 6 週 史料を読む④</td></tr> <tr><td>第 7 週 史料を読む④</td><td>第 7 週 史料を読む⑤</td></tr> <tr><td>第 8 週 先行研究を読む①</td><td>第 8 週 先行研究を読む①</td></tr> <tr><td>第 9 週 先行研究を読む②</td><td>第 9 週 先行研究を読む②</td></tr> <tr><td>第 10 週 先行研究を読む③</td><td>第 10 週 先行研究を読む③</td></tr> <tr><td>第 11 週 先行研究を読む④</td><td>第 11 週 先行研究を読む④</td></tr> <tr><td>第 12 週 先行研究を読む⑤</td><td>第 12 週 先行研究を読む⑤</td></tr> <tr><td>第 13 週 史料を読む⑤</td><td>第 13 週 研究テーマの設定</td></tr> <tr><td>第 14 週 史料を読む⑥</td><td>第 14 週 研究発表①</td></tr> <tr><td>第 15 週 史料を読む⑦</td><td>第 15 週 研究発表②</td></tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 特になし。</p> <p>【参考文献】</p> <p>①飯倉晴武『古文書入門ハンドブック』（吉川弘文館）2,500 円＋税 ②小山田和夫『入門 史料を読む 古代・中世』（吉川弘文館）2,000 円＋税 ③日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館）2,900 円＋税 ④日本歴史学会編『概説古文書学 近世編』（吉川弘文館）2,900 円＋税</p> <p>5. 準備学習</p> <p>参考文献を読み、古文書についての基本的な知識を身につける。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>平常点 50 点 発表 50 点      合計 100 点</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						前学期	後学期	第 1 週 オリエンテーション	第 1 週 オリエンテーション	第 2 週 史料とは	第 2 週 歴史学の論文の書き方	第 3 週 歴史関係のデータベース	第 3 週 史料を読む①	第 4 週 史料を読む①	第 4 週 史料を読む②	第 5 週 史料を読む②	第 5 週 史料を読む③	第 6 週 史料を読む③	第 6 週 史料を読む④	第 7 週 史料を読む④	第 7 週 史料を読む⑤	第 8 週 先行研究を読む①	第 8 週 先行研究を読む①	第 9 週 先行研究を読む②	第 9 週 先行研究を読む②	第 10 週 先行研究を読む③	第 10 週 先行研究を読む③	第 11 週 先行研究を読む④	第 11 週 先行研究を読む④	第 12 週 先行研究を読む⑤	第 12 週 先行研究を読む⑤	第 13 週 史料を読む⑤	第 13 週 研究テーマの設定	第 14 週 史料を読む⑥	第 14 週 研究発表①	第 15 週 史料を読む⑦	第 15 週 研究発表②
前学期	後学期																																				
第 1 週 オリエンテーション	第 1 週 オリエンテーション																																				
第 2 週 史料とは	第 2 週 歴史学の論文の書き方																																				
第 3 週 歴史関係のデータベース	第 3 週 史料を読む①																																				
第 4 週 史料を読む①	第 4 週 史料を読む②																																				
第 5 週 史料を読む②	第 5 週 史料を読む③																																				
第 6 週 史料を読む③	第 6 週 史料を読む④																																				
第 7 週 史料を読む④	第 7 週 史料を読む⑤																																				
第 8 週 先行研究を読む①	第 8 週 先行研究を読む①																																				
第 9 週 先行研究を読む②	第 9 週 先行研究を読む②																																				
第 10 週 先行研究を読む③	第 10 週 先行研究を読む③																																				
第 11 週 先行研究を読む④	第 11 週 先行研究を読む④																																				
第 12 週 先行研究を読む⑤	第 12 週 先行研究を読む⑤																																				
第 13 週 史料を読む⑤	第 13 週 研究テーマの設定																																				
第 14 週 史料を読む⑥	第 14 週 研究発表①																																				
第 15 週 史料を読む⑦	第 15 週 研究発表②																																				



科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：坪井 祐司	
科目名 (英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：y.tsuboi@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1232	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	509	火曜日 2 時限、木曜日 3 時限

1. 授業の概要  
 修士論文のテーマを決定し、そのテーマに関する文献（先行研究）の収集・読解を通じて研究課題を確定し、その課題を解明するための方法論を検討する。修士論文テーマ発表会および 1 年次終了発表会での準備を通して、プレゼンテーションの技術を磨く。

2. 到達目標  
 ・修士論文の研究課題および方法論を決定する。  
 ・プレゼンテーションの技術を習得し、自身の考えを客観的に伝えられるようになる。

3. 授業の計画と内容

前学期	後学期
第 1 週 インTRODクシヨン	第 1 週 インTRODクシヨン
第 2 週 研究とはなにか	第 2 週 研究課題の確定
第 3 週 研究課題を定める (1)	第 3 週 研究の方法論 (1)
第 4 週 研究課題を定める (2)	第 4 週 研究の方法論 (2)
第 5 週 先行研究を読む (1)	第 5 週 文献調査 (1)
第 6 週 先行研究を読む (2)	第 6 週 文献調査 (2)
第 7 週 先行研究を読む (3)	第 7 週 文献調査 (3)
第 8 週 先行研究を読む (4)	第 8 週 文献調査 (4)
第 9 週 中間まとめ	第 9 週 中間まとめ
第 10 週 方法論の検討 (1)	第 10 週 フィールドワーク (1)
第 11 週 方法論の検討 (2)	第 11 週 フィールドワーク (2)
第 12 週 方法論の検討 (3)	第 12 週 フィールドワーク (3)
第 13 週 方法論の検討 (4)	第 13 週 フィールドワーク (4)
第 14 週 テーマ発表会の準備 (1)	第 14 週 1 年次終了発表会の準備 (1)
第 15 週 テーマ発表会の準備 (2)	第 15 週 1 年次終了発表会の準備 (2)

4. テキスト・参考文献  
 テキストは、初回に参加者の研究関心を聞き、それに応じて選定する。参考書は、授業のなかで指示する。

5. 準備学習  
 毎回のディスカッションのなかで論文の準備を進めていくので、そこで指示された課題をこなしていくこと。

6. 成績評価の方法  
 ディスカッションへの参加 40 点  
 期末レポート 40 点  
 発表会でのプレゼンテーション 20 点 合計 100 点

7. 履修の条件  
 特になし。

8. その他  
 特になし。



class		言語文化研究演習 I			担当教員 : Meghan Kuckelman Beverage	
科目名 (英語)		Seminar In Language and Culture I			m.kuckelman@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	学部棟	研究室	オフィスアワー
2	2				404	Tu 1 Tu 4

The class will be held Thursdays, 3<sup>rd</sup> period (13:00-14:30).

### **Class content**

This course will introduce students to the principles and methods of graduate-level research and writing in English literary studies. Discussions during the first part of the course will focus on instructor-selected texts related loosely to the student's research project. In the second half of the course, discussions will center on student-selected texts directly connected to the student's project. Students will ultimately write a 10-page prospectus

### **Class objectives**

- Students will conduct independent research on a topic selected in consultation with the advisor and present the results of that research.
- Students will write a 10-page prospectus for the thesis.
- Students will learn the basic principles of graduate level literary research.

### **Class schedule**

Class 1: Introductions

Class 2: Conducting Research and Assembling the Annotated Bibliography

Class 3-7: Text Discussion (Teacher selection) and Review of Research

Class 8: Annotated Bibliography due

Class 9-13: Text Discussion (Student selection)

Class 14: Submit Prospectus Draft

Class 15: Submit Prospectus Revision

Class 16: Conclusions

### **Textbook**

Will vary according to student.

### **Assessment**

Participation: 20 points

Annotated Bibliography: 30

Thesis Prospectus: 50 points

Total: 100 points

### **Note**

- This course will be conducted entirely in English, including all reading, writing, and discussion.

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：嘉納 英明																																	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：kano@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1233																																	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																
4	2	通年	3	研510	火3・木3																																
<p>1. 授業の概要 言語文化研究演習Ⅰに引き続き、修士論文の作成を指導する。 修士論文中間発表を経て、修士論文を完成させることを最終目的とする。</p> <p>2. 到達目標 ①修士論文中間発表や最終発表に備える。 ②修士論文を完成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">(前期)</td> <td style="text-align: center;">(後期)</td> </tr> <tr> <td>第1週 オリエンテーション</td> <td>第1週 オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第2週 資料の収集方法と分析方法について</td> <td>第2週 修士論文中間発表のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>第3週 資料収集開始及び経過報告</td> <td>第3週 修士論文の執筆と検討①</td> </tr> <tr> <td>第4週 資料収集と経過報告</td> <td>第4週 修士論文の執筆と検討②</td> </tr> <tr> <td>第5週 資料収集の総括</td> <td>第5週 修士論文の執筆と検討③</td> </tr> <tr> <td>第6週 資料の分析①</td> <td>第6週 序論の完成</td> </tr> <tr> <td>第7週 資料の分析②</td> <td>第7週 修士論文の執筆と検討④</td> </tr> <tr> <td>第8週 資料調査の下書き①</td> <td>第8週 修士論文の執筆と検討⑤</td> </tr> <tr> <td>第9週 資料調査、文献の下書き</td> <td>第9週 修士論文の執筆と検討⑥</td> </tr> <tr> <td>第10週 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲①</td> <td>第10週 修士論文の執筆と検討⑦</td> </tr> <tr> <td>第11週 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲②</td> <td>第11週 最終的な修正と推敲 a</td> </tr> <tr> <td>第12週 修士論文中間発表の準備①</td> <td>第12週 最終的な修正と推敲 b</td> </tr> <tr> <td>第13週 修士論文中間発表の準備②</td> <td>第13週 最終的な修正と推敲 c</td> </tr> <tr> <td>第14週 修士論文中間発表の準備③</td> <td>第14週 修士論文全体の推敲</td> </tr> <tr> <td>第15週 演習Ⅱ (前期) のまとめ</td> <td>第15週 修士論文全体の推敲、完成</td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献 随時指定</p> <p>5. 準備学習 事前に修士論文の原稿(各章、各節)を指導教員に提出する。</p> <p>6. 成績評価の方法 修士論文の内容とその作成過程で総合的に評価する。</p> <p>7. 履修の条件 言語文化研究演習Ⅰを修了していること。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						(前期)	(後期)	第1週 オリエンテーション	第1週 オリエンテーション	第2週 資料の収集方法と分析方法について	第2週 修士論文中間発表のふりかえり	第3週 資料収集開始及び経過報告	第3週 修士論文の執筆と検討①	第4週 資料収集と経過報告	第4週 修士論文の執筆と検討②	第5週 資料収集の総括	第5週 修士論文の執筆と検討③	第6週 資料の分析①	第6週 序論の完成	第7週 資料の分析②	第7週 修士論文の執筆と検討④	第8週 資料調査の下書き①	第8週 修士論文の執筆と検討⑤	第9週 資料調査、文献の下書き	第9週 修士論文の執筆と検討⑥	第10週 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲①	第10週 修士論文の執筆と検討⑦	第11週 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲②	第11週 最終的な修正と推敲 a	第12週 修士論文中間発表の準備①	第12週 最終的な修正と推敲 b	第13週 修士論文中間発表の準備②	第13週 最終的な修正と推敲 c	第14週 修士論文中間発表の準備③	第14週 修士論文全体の推敲	第15週 演習Ⅱ (前期) のまとめ	第15週 修士論文全体の推敲、完成
(前期)	(後期)																																				
第1週 オリエンテーション	第1週 オリエンテーション																																				
第2週 資料の収集方法と分析方法について	第2週 修士論文中間発表のふりかえり																																				
第3週 資料収集開始及び経過報告	第3週 修士論文の執筆と検討①																																				
第4週 資料収集と経過報告	第4週 修士論文の執筆と検討②																																				
第5週 資料収集の総括	第5週 修士論文の執筆と検討③																																				
第6週 資料の分析①	第6週 序論の完成																																				
第7週 資料の分析②	第7週 修士論文の執筆と検討④																																				
第8週 資料調査の下書き①	第8週 修士論文の執筆と検討⑤																																				
第9週 資料調査、文献の下書き	第9週 修士論文の執筆と検討⑥																																				
第10週 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲①	第10週 修士論文の執筆と検討⑦																																				
第11週 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲②	第11週 最終的な修正と推敲 a																																				
第12週 修士論文中間発表の準備①	第12週 最終的な修正と推敲 b																																				
第13週 修士論文中間発表の準備②	第13週 最終的な修正と推敲 c																																				
第14週 修士論文中間発表の準備③	第14週 修士論文全体の推敲																																				
第15週 演習Ⅱ (前期) のまとめ	第15週 修士論文全体の推敲、完成																																				

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：渡慶次 正則																																																																	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235																																																																	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																																																
2	2	通年	5	研 512	月曜日 6 時限																																																																
<p>1. 授業の概要 修士論文のリサーチ・プロポーザルを完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを目的とする。</p> <p>2. 到達目標 (1) 修士論文中間発表や最終発表に備える。 (2) 修士論文を完成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr> <td>(前期)</td> <td></td> <td>(後期)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 1 回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>第 1 回</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>データの収集方法と分析方法について</td> <td>第 2 回</td> <td>中間発表の反省</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>データ収集開始及び経過報告</td> <td>第 3 回</td> <td>修士論文の執筆と修正</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>データ収集と経過報告</td> <td>第 4 回</td> <td>修士論文の執筆と修正</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>データ収集終了</td> <td>第 5 回</td> <td>修士論文の執筆と修正</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>データの分析</td> <td>第 6 回</td> <td>修士論文の執筆と修正</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>データの分析</td> <td>第 7 回</td> <td>序論の完成</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>調査方法の下書き</td> <td>第 8 回</td> <td>修士論文の執筆と修正</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>調査結果の下書き</td> <td>第 9 回</td> <td>修士論文のスタイル確認</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>文献の下書き</td> <td>第 10 回</td> <td>結論の下書き</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>文献の下書き</td> <td>第 11 回</td> <td>最終的な修正と推敲</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (1)</td> <td>第 12 回</td> <td>最終的な修正と推敲</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (2)</td> <td>第 13 回</td> <td>最終的な修正と推敲</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>中間発表の準備</td> <td>第 14 回</td> <td>最終的な修正と推敲</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>講義のまとめ</td> <td>第 15 回</td> <td>修士論文全体の推敲、完成</td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 特になし。 【参考文献】 随時指定</p> <p>5. 準備学習 事前に修士論文の原稿を指導教員に送付する。</p> <p>6. 成績評価の方法 修士論文とその作成過程で総合的に評価。</p> <p>7. 履修の条件 言語文化研究演習Ⅰを終了する事。</p> <p>8. その他 特になし</p>						(前期)		(後期)		第 1 回	オリエンテーション	第 1 回	オリエンテーション	第 2 回	データの収集方法と分析方法について	第 2 回	中間発表の反省	第 3 回	データ収集開始及び経過報告	第 3 回	修士論文の執筆と修正	第 4 回	データ収集と経過報告	第 4 回	修士論文の執筆と修正	第 5 回	データ収集終了	第 5 回	修士論文の執筆と修正	第 6 回	データの分析	第 6 回	修士論文の執筆と修正	第 7 回	データの分析	第 7 回	序論の完成	第 8 回	調査方法の下書き	第 8 回	修士論文の執筆と修正	第 9 回	調査結果の下書き	第 9 回	修士論文のスタイル確認	第 10 回	文献の下書き	第 10 回	結論の下書き	第 11 回	文献の下書き	第 11 回	最終的な修正と推敲	第 12 回	調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (1)	第 12 回	最終的な修正と推敲	第 13 回	調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (2)	第 13 回	最終的な修正と推敲	第 14 回	中間発表の準備	第 14 回	最終的な修正と推敲	第 15 回	講義のまとめ	第 15 回	修士論文全体の推敲、完成
(前期)		(後期)																																																																			
第 1 回	オリエンテーション	第 1 回	オリエンテーション																																																																		
第 2 回	データの収集方法と分析方法について	第 2 回	中間発表の反省																																																																		
第 3 回	データ収集開始及び経過報告	第 3 回	修士論文の執筆と修正																																																																		
第 4 回	データ収集と経過報告	第 4 回	修士論文の執筆と修正																																																																		
第 5 回	データ収集終了	第 5 回	修士論文の執筆と修正																																																																		
第 6 回	データの分析	第 6 回	修士論文の執筆と修正																																																																		
第 7 回	データの分析	第 7 回	序論の完成																																																																		
第 8 回	調査方法の下書き	第 8 回	修士論文の執筆と修正																																																																		
第 9 回	調査結果の下書き	第 9 回	修士論文のスタイル確認																																																																		
第 10 回	文献の下書き	第 10 回	結論の下書き																																																																		
第 11 回	文献の下書き	第 11 回	最終的な修正と推敲																																																																		
第 12 回	調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (1)	第 12 回	最終的な修正と推敲																																																																		
第 13 回	調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (2)	第 13 回	最終的な修正と推敲																																																																		
第 14 回	中間発表の準備	第 14 回	最終的な修正と推敲																																																																		
第 15 回	講義のまとめ	第 15 回	修士論文全体の推敲、完成																																																																		

科目名	言語文化研究演習II			担当教員：小番 達																																	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：t.kotsugai@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1212																																	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー																																
4	2	通年	2	研 504	火曜日 4 時限、木曜日 4 時限																																
<p>1. 授業の概要 論文概要に基づき、中間発表を経て、修士論文の完成まで指導する。</p> <p>2. 到達目標 修士論文を完成させる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;"><b>前学期</b></td> <td style="text-align: center;"><b>後学期</b></td> </tr> <tr> <td>第 1 週 オリエンテーション (研究倫理の確認も含む)</td> <td>第 1 週 前学期及び中間発表の振り返り</td> </tr> <tr> <td>第 2 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (1)</td> <td>第 2 週 論文の執筆と内容の検討 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 3 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (2)</td> <td>第 3 週 論文の執筆と内容の検討 (2)</td> </tr> <tr> <td>第 4 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (3)</td> <td>第 4 週 論文の執筆と内容の検討 (3)</td> </tr> <tr> <td>第 5 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (4)</td> <td>第 5 週 論文の執筆と内容の検討 (4)</td> </tr> <tr> <td>第 6 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (5)</td> <td>第 6 週 論文の執筆と内容の検討 (5)</td> </tr> <tr> <td>第 7 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (6)</td> <td>第 7 週 論文の執筆と内容の検討 (6)</td> </tr> <tr> <td>第 8 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (7)</td> <td>第 8 週 論文の執筆と内容の検討 (7)</td> </tr> <tr> <td>第 9 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (8)</td> <td>第 9 週 論文の執筆と内容の検討 (8)</td> </tr> <tr> <td>第 10 週 論文の構成 (1)</td> <td>第 10 週 論文の執筆と内容の検討 (9)</td> </tr> <tr> <td>第 11 週 論文の構成 (2)</td> <td>第 11 週 論文の執筆と内容の検討 (10)</td> </tr> <tr> <td>第 12 週 論文の構成 (3)</td> <td>第 12 週 論文の推敲と校正 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 13 週 中間発表の準備 (1)</td> <td>第 13 週 論文の推敲と校正 (2)</td> </tr> <tr> <td>第 14 週 中間発表の準備 (2)</td> <td>第 14 週 論文の推敲と校正 (3)</td> </tr> <tr> <td>第 15 週 中間発表の準備 (3)</td> <td>第 15 週 修士論文の最終確認</td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】特になし。 【参考文献】適宜紹介する。</p> <p>5. 準備学習 論文の内容と進捗状況を毎回確認するため、事前に提出する。</p> <p>6. 成績評価の方法 論文の内容とその執筆過程の状況から総合的に評価する。</p> <p>7. 履修の条件 言語文化研究演習Iを履修していること。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						<b>前学期</b>	<b>後学期</b>	第 1 週 オリエンテーション (研究倫理の確認も含む)	第 1 週 前学期及び中間発表の振り返り	第 2 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (1)	第 2 週 論文の執筆と内容の検討 (1)	第 3 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (2)	第 3 週 論文の執筆と内容の検討 (2)	第 4 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (3)	第 4 週 論文の執筆と内容の検討 (3)	第 5 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (4)	第 5 週 論文の執筆と内容の検討 (4)	第 6 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (5)	第 6 週 論文の執筆と内容の検討 (5)	第 7 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (6)	第 7 週 論文の執筆と内容の検討 (6)	第 8 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (7)	第 8 週 論文の執筆と内容の検討 (7)	第 9 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (8)	第 9 週 論文の執筆と内容の検討 (8)	第 10 週 論文の構成 (1)	第 10 週 論文の執筆と内容の検討 (9)	第 11 週 論文の構成 (2)	第 11 週 論文の執筆と内容の検討 (10)	第 12 週 論文の構成 (3)	第 12 週 論文の推敲と校正 (1)	第 13 週 中間発表の準備 (1)	第 13 週 論文の推敲と校正 (2)	第 14 週 中間発表の準備 (2)	第 14 週 論文の推敲と校正 (3)	第 15 週 中間発表の準備 (3)	第 15 週 修士論文の最終確認
<b>前学期</b>	<b>後学期</b>																																				
第 1 週 オリエンテーション (研究倫理の確認も含む)	第 1 週 前学期及び中間発表の振り返り																																				
第 2 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (1)	第 2 週 論文の執筆と内容の検討 (1)																																				
第 3 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (2)	第 3 週 論文の執筆と内容の検討 (2)																																				
第 4 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (3)	第 4 週 論文の執筆と内容の検討 (3)																																				
第 5 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (4)	第 5 週 論文の執筆と内容の検討 (4)																																				
第 6 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (5)	第 6 週 論文の執筆と内容の検討 (5)																																				
第 7 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (6)	第 7 週 論文の執筆と内容の検討 (6)																																				
第 8 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (7)	第 8 週 論文の執筆と内容の検討 (7)																																				
第 9 週 本文・資料の分析と先行研究の検討 (8)	第 9 週 論文の執筆と内容の検討 (8)																																				
第 10 週 論文の構成 (1)	第 10 週 論文の執筆と内容の検討 (9)																																				
第 11 週 論文の構成 (2)	第 11 週 論文の執筆と内容の検討 (10)																																				
第 12 週 論文の構成 (3)	第 12 週 論文の推敲と校正 (1)																																				
第 13 週 中間発表の準備 (1)	第 13 週 論文の推敲と校正 (2)																																				
第 14 週 中間発表の準備 (2)	第 14 週 論文の推敲と校正 (3)																																				
第 15 週 中間発表の準備 (3)	第 15 週 修士論文の最終確認																																				

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：小嶋 洋輔																																	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：y.kojima@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1092																																	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー																																
4	2	通年		415	月曜日 3 時限、火曜日 3 時限																																
<p>1. 授業の概要</p> <p>一年次で行った作業に基づいて、修士論文を完成させることを目的とする。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>①修士論文中間発表や最終発表に備える。 ②修士論文を完成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">前学期</th> <th style="text-align: center;">後学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 週 オリエンテーション</td> <td>第 1 週 オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第 2 週 資料収集とその概括①</td> <td>第 2 週 執筆を進める①</td> </tr> <tr> <td>第 3 週 資料収集とその概括②</td> <td>第 3 週 執筆を進める②</td> </tr> <tr> <td>第 4 週 資料収集とその概括③</td> <td>第 4 週 執筆を進める③</td> </tr> <tr> <td>第 5 週 資料収集とその概括④</td> <td>第 5 週 執筆を進める④</td> </tr> <tr> <td>第 6 週 資料収集とその概括⑤</td> <td>第 6 週 執筆を進める⑤</td> </tr> <tr> <td>第 7 週 資料収集とその概括⑥</td> <td>第 7 週 執筆を進める⑥</td> </tr> <tr> <td>第 8 週 資料収集とその概括⑦</td> <td>第 8 週 執筆を進める⑦</td> </tr> <tr> <td>第 9 週 資料収集とその概括⑧</td> <td>第 9 週 執筆を進める⑧</td> </tr> <tr> <td>第 10 週 資料収集とその概括⑨</td> <td>第 10 週 執筆を進める⑨</td> </tr> <tr> <td>第 11 週 資料収集とその概括⑩</td> <td>第 11 週 執筆を進める⑩</td> </tr> <tr> <td>第 12 週 序章、第 1 章を書く①</td> <td>第 12 週 推敲①</td> </tr> <tr> <td>第 13 週 序章、第 1 章を書く①</td> <td>第 13 週 推敲②</td> </tr> <tr> <td>第 14 週 中間発表の準備</td> <td>第 14 週 推敲③</td> </tr> <tr> <td>第 15 週 まとめ（改めて研究倫理について）</td> <td>第 15 週 修士論文完成</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献 随時指定する。</p> <p>5. 準備学習 修士論文の現状に関する報告、その準備がいわゆる準備学習と言える。</p> <p>6. 成績評価の方法 修士論文の内容とその作成過程を総合的に評価する。</p> <p>7. 履修の条件 言語文化研究演習Ⅰを修了していること。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						前学期	後学期	第 1 週 オリエンテーション	第 1 週 オリエンテーション	第 2 週 資料収集とその概括①	第 2 週 執筆を進める①	第 3 週 資料収集とその概括②	第 3 週 執筆を進める②	第 4 週 資料収集とその概括③	第 4 週 執筆を進める③	第 5 週 資料収集とその概括④	第 5 週 執筆を進める④	第 6 週 資料収集とその概括⑤	第 6 週 執筆を進める⑤	第 7 週 資料収集とその概括⑥	第 7 週 執筆を進める⑥	第 8 週 資料収集とその概括⑦	第 8 週 執筆を進める⑦	第 9 週 資料収集とその概括⑧	第 9 週 執筆を進める⑧	第 10 週 資料収集とその概括⑨	第 10 週 執筆を進める⑨	第 11 週 資料収集とその概括⑩	第 11 週 執筆を進める⑩	第 12 週 序章、第 1 章を書く①	第 12 週 推敲①	第 13 週 序章、第 1 章を書く①	第 13 週 推敲②	第 14 週 中間発表の準備	第 14 週 推敲③	第 15 週 まとめ（改めて研究倫理について）	第 15 週 修士論文完成
前学期	後学期																																				
第 1 週 オリエンテーション	第 1 週 オリエンテーション																																				
第 2 週 資料収集とその概括①	第 2 週 執筆を進める①																																				
第 3 週 資料収集とその概括②	第 3 週 執筆を進める②																																				
第 4 週 資料収集とその概括③	第 4 週 執筆を進める③																																				
第 5 週 資料収集とその概括④	第 5 週 執筆を進める④																																				
第 6 週 資料収集とその概括⑤	第 6 週 執筆を進める⑤																																				
第 7 週 資料収集とその概括⑥	第 7 週 執筆を進める⑥																																				
第 8 週 資料収集とその概括⑦	第 8 週 執筆を進める⑦																																				
第 9 週 資料収集とその概括⑧	第 9 週 執筆を進める⑧																																				
第 10 週 資料収集とその概括⑨	第 10 週 執筆を進める⑨																																				
第 11 週 資料収集とその概括⑩	第 11 週 執筆を進める⑩																																				
第 12 週 序章、第 1 章を書く①	第 12 週 推敲①																																				
第 13 週 序章、第 1 章を書く①	第 13 週 推敲②																																				
第 14 週 中間発表の準備	第 14 週 推敲③																																				
第 15 週 まとめ（改めて研究倫理について）	第 15 週 修士論文完成																																				

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：照屋 理	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：m.teruya@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1231	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	508	火曜日 1 時限、木曜日 1 時限
1. 授業の概要					
琉球文化圏（奄美～八重山諸島）における民俗（染織、住環境、食文化等）、文学（伝説、昔話、歌謡、呪文等）、言語（琉球語・方言。特に歌謡語）、芸能（琉球芸能、組踊、沖縄芝居等）事象を対象とした研究指導を行う。					
2. 到達目標					
修士論文の執筆および完成を目標とする。					
3. 授業の計画と内容					
前学期			後学期		
第 1 週	概要説明および研究計画の検討			第 1 週	夏季休暇フィールドワーク・執筆報告 1
第 2 週	研究計画の修正、検討			第 2 週	夏季休暇フィールドワーク・執筆報告 2
第 3 週	修論草稿輪読 1			第 3 週	夏季休暇フィールドワーク・執筆報告 3
第 4 週	修論草稿輪読 2			第 4 週	修論草稿輪読 10
第 5 週	修論草稿輪読 3			第 5 週	修論草稿輪読 11
第 6 週	修論草稿輪読 4			第 6 週	修論草稿輪読 12
第 7 週	修論草稿輪読 5			第 7 週	修論草稿輪読 13
第 8 週	修論草稿輪読 6			第 8 週	修論草稿輪読 14
第 9 週	修論草稿輪読 7			第 9 週	修論草稿輪読 15
第 10 週	修論草稿輪読 8			第 10 週	修論草稿輪読 16
第 11 週	修論草稿輪読 9			第 11 週	修論草稿輪読 17
第 12 週	夏季休暇フィールドワーク・執筆計画 1			第 12 週	修論草稿輪読 18
第 13 週	夏季休暇フィールドワーク・執筆計画 2			第 13 週	ゼミ内最終発表 1
第 14 週	ゼミ内中間発表 1			第 14 週	ゼミ内最終発表 2
第 15 週	ゼミ内中間発表 2			第 15 週	ゼミ内最終発表 3
4. テキスト・参考文献					
【テキスト】特になし。					
【参考文献】①『東アジアの歌と文字』（2021 年，勉誠出版）					
②『琉球諸語と文化の未来』（2021 年，岩波書店）					
③『新編 沖縄の文学』（2008，沖縄時事出版）					
5. 準備学習					
普段から琉球・沖縄文化とは何か、その普遍性とは具体的にどんなものか等について考えることが望ましい。					
6. 成績評価の方法					
レポート	50 点				
発表	50 点	合計 100 点			
7. 履修の条件					
特になし。					
8. その他					
特になし。					

科目名	言語文化研究演習II			担当教員：屋良 健一郎																																							
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：k.yara@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1211																																							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー																																						
4	1	通年	2	402	火曜日 4 時限、木曜日 3 時限																																						
<p>1. 授業の概要</p> <p>先行研究の成果と課題を把握し、修士論文で扱うテーマを決定する。修士論文で扱う史料を収集・読解し、論文の執筆を行う。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>①史料の読解力を身につける。 ②先行研究を収集・分析し、批判する力を身につける。 ③修士論文のテーマ決定、執筆を行う。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">前学期</th> <th style="text-align: left;">後学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>第 1 週 オリエンテーション</td><td>第 1 週 オリエンテーション</td></tr> <tr><td>第 2 週 先行研究を読む①</td><td>第 2 週 研究発表①</td></tr> <tr><td>第 3 週 先行研究を読む②</td><td>第 3 週 研究発表②</td></tr> <tr><td>第 4 週 先行研究を読む③</td><td>第 4 週 研究発表③</td></tr> <tr><td>第 5 週 修士論文テーマの決定</td><td>第 5 週 研究発表④</td></tr> <tr><td>第 6 週 史料の収集と読解①</td><td>第 6 週 研究発表⑤</td></tr> <tr><td>第 7 週 史料の収集と読解②</td><td>第 7 週 研究発表⑥</td></tr> <tr><td>第 8 週 史料の収集と読解③</td><td>第 8 週 研究発表⑦</td></tr> <tr><td>第 9 週 史料の収集と読解④</td><td>第 9 週 研究発表⑧</td></tr> <tr><td>第 10 週 史料の収集と読解⑤</td><td>第 10 週 研究発表⑨</td></tr> <tr><td>第 11 週 修士論文の構想①</td><td>第 11 週 研究発表⑩</td></tr> <tr><td>第 12 週 修士論文の構想②</td><td>第 12 週 研究発表⑪</td></tr> <tr><td>第 13 週 修士論文の構想③</td><td>第 13 週 研究発表⑫</td></tr> <tr><td>第 14 週 修士論文の章立て①</td><td>第 14 週 研究発表⑬</td></tr> <tr><td>第 15 週 修士論文の章立て②</td><td>第 15 週 研究発表⑭</td></tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 特になし。</p> <p>【参考文献】</p> <p>①飯倉晴武『古文書入門ハンドブック』（吉川弘文館）2,500 円＋税 ②小山田和夫『入門 史料を読む 古代・中世』（吉川弘文館）2,000 円＋税 ③日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館）2,900 円＋税 ④日本歴史学会編『概説古文書学 近世編』（吉川弘文館）2,900 円＋税</p> <p>5. 準備学習</p> <p>参考文献を読み、古文書についての基本的な知識を身につける。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>発表</td> <td>50 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>修士論文の内容</td> <td>50 点</td> <td>合計 100 点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						前学期	後学期	第 1 週 オリエンテーション	第 1 週 オリエンテーション	第 2 週 先行研究を読む①	第 2 週 研究発表①	第 3 週 先行研究を読む②	第 3 週 研究発表②	第 4 週 先行研究を読む③	第 4 週 研究発表③	第 5 週 修士論文テーマの決定	第 5 週 研究発表④	第 6 週 史料の収集と読解①	第 6 週 研究発表⑤	第 7 週 史料の収集と読解②	第 7 週 研究発表⑥	第 8 週 史料の収集と読解③	第 8 週 研究発表⑦	第 9 週 史料の収集と読解④	第 9 週 研究発表⑧	第 10 週 史料の収集と読解⑤	第 10 週 研究発表⑨	第 11 週 修士論文の構想①	第 11 週 研究発表⑩	第 12 週 修士論文の構想②	第 12 週 研究発表⑪	第 13 週 修士論文の構想③	第 13 週 研究発表⑫	第 14 週 修士論文の章立て①	第 14 週 研究発表⑬	第 15 週 修士論文の章立て②	第 15 週 研究発表⑭	発表	50 点		修士論文の内容	50 点	合計 100 点
前学期	後学期																																										
第 1 週 オリエンテーション	第 1 週 オリエンテーション																																										
第 2 週 先行研究を読む①	第 2 週 研究発表①																																										
第 3 週 先行研究を読む②	第 3 週 研究発表②																																										
第 4 週 先行研究を読む③	第 4 週 研究発表③																																										
第 5 週 修士論文テーマの決定	第 5 週 研究発表④																																										
第 6 週 史料の収集と読解①	第 6 週 研究発表⑤																																										
第 7 週 史料の収集と読解②	第 7 週 研究発表⑥																																										
第 8 週 史料の収集と読解③	第 8 週 研究発表⑦																																										
第 9 週 史料の収集と読解④	第 9 週 研究発表⑧																																										
第 10 週 史料の収集と読解⑤	第 10 週 研究発表⑨																																										
第 11 週 修士論文の構想①	第 11 週 研究発表⑩																																										
第 12 週 修士論文の構想②	第 12 週 研究発表⑪																																										
第 13 週 修士論文の構想③	第 13 週 研究発表⑫																																										
第 14 週 修士論文の章立て①	第 14 週 研究発表⑬																																										
第 15 週 修士論文の章立て②	第 15 週 研究発表⑭																																										
発表	50 点																																										
修士論文の内容	50 点	合計 100 点																																									



科目名	言語文化研究演習 II			担当教員：坪井 祐司																																	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：y.tsuboi@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1232																																	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー																																
4	1	通年	2	509	火曜日 2 時限、木曜日 3 時限																																
<p>1. 授業の概要</p> <p>修士論文を完成させる。1 年次で決定した方針に基づき、調査によるデータ収集および分析を行い、ディスカッションを通じてその結果を客観的な議論として提示する。論文執筆における書式や作法を修得し、調査結果を論文へと仕上げていく。</p> <p>2. 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文を完成させる。</li> <li>・プレゼンテーションの技術を習得し、自身の考えを客観的に伝えられるようになる。</li> </ul> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">前学期</th> <th style="text-align: left;">後学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 週 イン트로ダクション</td> <td>第 1 週 イン트로ダクション</td> </tr> <tr> <td>第 2 週 論文とはなにか</td> <td>第 2 週 章編成の確定</td> </tr> <tr> <td>第 3 週 序論を書く (1)</td> <td>第 3 週 調査結果の分析 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 4 週 序論を書く (2)</td> <td>第 4 週 調査結果の分析 (2)</td> </tr> <tr> <td>第 5 週 先行研究の整理 (1)</td> <td>第 5 週 調査結果の分析 (3)</td> </tr> <tr> <td>第 6 週 先行研究の整理 (2)</td> <td>第 6 週 調査結果の分析 (4)</td> </tr> <tr> <td>第 7 週 先行研究の整理 (3)</td> <td>第 7 週 中間まとめ</td> </tr> <tr> <td>第 8 週 先行研究の整理 (4)</td> <td>第 8 週 各章の執筆 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 9 週 中間まとめ</td> <td>第 9 週 各章の執筆 (2)</td> </tr> <tr> <td>第 10 週 方法論の検討 (1)</td> <td>第 10 週 各章の執筆 (3)</td> </tr> <tr> <td>第 11 週 方法論の検討 (2)</td> <td>第 11 週 各章の執筆 (4)</td> </tr> <tr> <td>第 12 週 論文の構成 (1)</td> <td>第 12 週 結論 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 13 週 論文の構成 (2)</td> <td>第 13 週 結論 (2)</td> </tr> <tr> <td>第 14 週 中間発表会の準備 (1)</td> <td>第 14 週 最終発表 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 15 週 中間発表会の準備 (2)</td> <td>第 15 週 最終発表 (2)</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>テキストは、初回に参加者の研究関心を聞き、それに応じて選定する。参考書は、授業のなかで指示する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>毎回のディスカッションのなかで論文の準備を進めていくので、そこで指示された課題をこなしていくこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>ディスカッションへの参加 40 点 修士論文 60 点 合計 100 点</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						前学期	後学期	第 1 週 イン트로ダクション	第 1 週 イン트로ダクション	第 2 週 論文とはなにか	第 2 週 章編成の確定	第 3 週 序論を書く (1)	第 3 週 調査結果の分析 (1)	第 4 週 序論を書く (2)	第 4 週 調査結果の分析 (2)	第 5 週 先行研究の整理 (1)	第 5 週 調査結果の分析 (3)	第 6 週 先行研究の整理 (2)	第 6 週 調査結果の分析 (4)	第 7 週 先行研究の整理 (3)	第 7 週 中間まとめ	第 8 週 先行研究の整理 (4)	第 8 週 各章の執筆 (1)	第 9 週 中間まとめ	第 9 週 各章の執筆 (2)	第 10 週 方法論の検討 (1)	第 10 週 各章の執筆 (3)	第 11 週 方法論の検討 (2)	第 11 週 各章の執筆 (4)	第 12 週 論文の構成 (1)	第 12 週 結論 (1)	第 13 週 論文の構成 (2)	第 13 週 結論 (2)	第 14 週 中間発表会の準備 (1)	第 14 週 最終発表 (1)	第 15 週 中間発表会の準備 (2)	第 15 週 最終発表 (2)
前学期	後学期																																				
第 1 週 イン트로ダクション	第 1 週 イン트로ダクション																																				
第 2 週 論文とはなにか	第 2 週 章編成の確定																																				
第 3 週 序論を書く (1)	第 3 週 調査結果の分析 (1)																																				
第 4 週 序論を書く (2)	第 4 週 調査結果の分析 (2)																																				
第 5 週 先行研究の整理 (1)	第 5 週 調査結果の分析 (3)																																				
第 6 週 先行研究の整理 (2)	第 6 週 調査結果の分析 (4)																																				
第 7 週 先行研究の整理 (3)	第 7 週 中間まとめ																																				
第 8 週 先行研究の整理 (4)	第 8 週 各章の執筆 (1)																																				
第 9 週 中間まとめ	第 9 週 各章の執筆 (2)																																				
第 10 週 方法論の検討 (1)	第 10 週 各章の執筆 (3)																																				
第 11 週 方法論の検討 (2)	第 11 週 各章の執筆 (4)																																				
第 12 週 論文の構成 (1)	第 12 週 結論 (1)																																				
第 13 週 論文の構成 (2)	第 13 週 結論 (2)																																				
第 14 週 中間発表会の準備 (1)	第 14 週 最終発表 (1)																																				
第 15 週 中間発表会の準備 (2)	第 15 週 最終発表 (2)																																				

class		言語文化研究演習 II			担当教員 : Meghan Kuckelman Beverage	
科目名 (英語)		Seminar In Language and Culture II			m.kuckelman@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	学部棟	研究室	オフィスアワー
2	2				404	Tu 1 Tu 4

The class will be held Thursdays, 3<sup>rd</sup> period (13:00-14:30).

### Class content

This course will continue to sharpen the skills of graduate-level research and writing in English literary studies that were introduced in the Seminar I. In addition, the principles of primary text analysis will be introduced and practiced. The theory and secondary research conducted during the 1<sup>st</sup> semester will be used to better understand the primary texts under examination.

### Class objectives

- Students will conduct independent research on a topic selected in consultation with the advisor and present the results of that research.
- Students will write a primary text analysis that draws on the research conducted during Seminars I and II.
- Students will continue to develop graduate level literary research skills.

### Class schedule

Class 1: Introductions

Class 2: Introduction to Primary Text Analysis

Class 3-9: Text Discussion (Teacher selection) and Review of Research

Class 10: Primary Text Analysis Due

Class 11-13: Research Review

Class 14: Submit Prospectus Draft

Class 15: Submit Prospectus Revision

Class 16: Conclusions

### Textbook

Will vary according to student.

### Assessment

Participation: 20 points

Primary Text Analysis: 30

Prospectus Revision and Outline: 50 points

Total: 100 points

### Note

- This course will be conducted entirely in English, including all reading, writing, and discussion.

科目名	言語学特論 I			担当教員:	
科目名(英語)	Special Lectures in Linguistics I			メールアドレス: 研究室電話番号:	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	未開講			

1. 授業の概要  
理論研究の対象としての言語に関する知識、あるいは理論言語学の分野で問題になる様々な現象を取り上げ、教授する。特に統語論における基本的な考え方を理解し、言語現象に対するアプローチ方法を学ぶ。

2. 到達目標  
理論言語学研究、特に統語的研究に関する方法論を身につけ、形態論・語形成を中心に学ぶ。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 Syntax I: Argument structure and phrase structure Part 1
- 第 2 週 Syntax I: Argument structure and phrase structure Part 2
- 第 3 週 Syntax I: Argument structure and phrase structure Part 3
- 第 4 週 Syntax I: Argument structure and phrase structure Part 4
- 第 5 週 Syntax I: Argument structure and phrase structure Part 5
- 第 6 週 Syntax I: Argument structure and phrase structure Part 6
- 第 7 週 Syntax I: Argument structure and phrase structure Part 7
- 第 8 週 Syntax II: Syntactic dependencies Part 1
- 第 9 週 Syntax II: Syntactic dependencies Part 2
- 第 10 週 Syntax II: Syntactic dependencies Part 3
- 第 11 週 Syntax II: Syntactic dependencies Part 4
- 第 12 週 Syntax II: Syntactic dependencies Part 5
- 第 13 週 Syntax II: Syntactic dependencies Part 6
- 第 14 週 Syntax II: Syntactic dependencies Part 7
- 第 15 週 Syntax II: Syntactic dependencies Part 8
- 第 16 週 まとめ

4. テキスト・参考文献

【テキスト】  
『形態論と語形成』 R. Huddleson & G. K. Pullum 著、今仁生美/伊藤たかね他訳、2021年7月（開拓社）、4620円

【参考文献】  
授業において適宜紹介する。

5. 準備学習  
毎回の授業で指名された受講者がテキストの担当範囲を要約し、問題点を指摘するので、各自準備をしておく。

6. 成績評価の方法

- クラスでのプレゼンテーション 50点
- 期末報告レポート（この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する） 50点
- 合計 100点

7. 履修の条件  
特になし。

8. その他  
特になし。

科目名	言語学特論Ⅱ			担当教員:	ハイス・ファン＝デル＝ルベ (非常勤講師)	
				メールアドレス:	gijs.van.der.lubbe@gmail.com	
科目名 (英語)	Special Lectures in Linguistics II			時間割:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・●曜日●時限、</li> <li>・受講希望者と調整 など</li> </ul>	
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1・2			—	—	
<b>1. 授業の概要 Class content</b>						
<p>「琉球諸語の文法記述」を研究分野として、考察していく。社会言語学、歴史言語学、文法記述の基本概念を概説する。</p> <p>次に、文法記述のためのフィールドワークの方法論と文法記述研究の具体例を概観する。</p>						
<b>2. 到達目標 Class objectives</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球諸語を科学的に分析する言語学のさまざまな分野を理解する。</li> <li>・琉球諸語の記述の意義と目的を理解する。</li> <li>・言語のしくみについて基礎的な知識を得る。</li> <li>・ことばを客観的に分析する姿勢を身につける。</li> <li>・琉球諸語の持つ面白さを発見できるようになる。</li> </ul>						
<b>3. 授業計画と内容 Class schedule and content</b>						
<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 琉球諸語の社会言語学</p> <p>第3回 琉球諸語の歴史言語学</p> <p>第4回 文法記述フィールドワーク</p> <p>第5回 琉球諸語における形態論とその記述</p> <p>第6回 動詞形態論</p> <p>第7回 形容詞形態論</p> <p>第8回 名詞形態論</p> <p>第9回 琉球諸語における統語論的範疇とその記述</p> <p>第10回 名詞句</p> <p>第11回 格</p> <p>第12回 琉球諸語におけるテンス・アスペクト・ムードとその記述</p> <p>第13回 エヴィデンシャルティー</p> <p>第14回 復文</p> <p>第15回 まとめ</p>						
<b>4. テキスト・参考文献 Textbook・References</b>						
<p>名護市史編さん委員会 (2006) 『名護市史本編10・言語』</p> <p>田窪行則 (編) (2013) 『琉球列島の言語と文化』</p> <p>下地理則 (2018) 『南琉球宮古語伊良部方言』</p> <p>Thomas E. Payne (1997) Describing Morpho-Syntax</p> <p>Patrick Heinrich and Yumiko Ohara (eds.) (2019) Routledge Handbook of Japanese Sociolinguistics</p>						
<b>5. 準備学習 Preliminary investigation</b>						
授業の前に、リーディング課題 (日本語または、英語) を読んだうえで授業に臨むこと						
<b>6. 成績評価方法 Assessment</b>						
<p>授業への積極的な参加および授業に関する考察 (20%)</p> <p>リーディング課題 (40%)</p> <p>最終レポート (40%)</p>						
<b>7. 履修の条件 Taking courses Conditions</b>						
特になし						
<b>8. その他 Note</b>						
感染症の状況や、そのほかの状況によっては、講義内容を変更することもある。						

class	class	英文学特論			担当教員 : Meghan Kuckelman Beverage	
	科目名 (英語)	Survey of British Literature			E-mail: m.kuckelman@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	学部棟	研究室	オフィスアワー
					404	Tu 1 Tu 4

### Class content

This course will cover British poetry from Shakespeare to Contemporary. “British” will be loosely interpreted to mean writers within and without the UK proper, including those, such as Ali Cobby Eckerman, who were born in the British Commonwealth and whose lives were radically impacted by the British Empire. The focus of the course will be on the various ways that poetic form frames and creates meaning in poetry.

### Class objectives

Students will be able to:

- identify basic rhyme and meter patterns in English poetry
- define, identify, and analyze several poetic forms, including the ballad and sonnet
- describe the difference between formal poetry and free verse poetry
- identify and explain some of the major concerns of Modernism and contemporary poetry

### Class schedule

Class 1: Introductions

Classes 2-3: Rhyme and Meter

- Robert Burns—“A Red Red Rose”
- Christina Rossetti—“A Birthday”
- William Blake—“The Lamb” and “The Tyger”

Classes 4-6: Sonnets

- Shakespeare—“Shall I compare thee to a summer’s day”; “When, in disgrace with Fortune and men’s eyes”
- William Wordsworth—“The World Is Too Much with Us”
- Shelley—“Ozymandias”

Classes 7-8: Modernism

- Wilfred Owen—“Dulce et decorum est”
- William Butler Yeats—“The Second Coming”

Classes 9-10: Post-Colonial and Immigrant

- Ali Cobby Eckerman—from *Inside My Mother*
- Warsan Shire—from *Teaching My Mother How to Give Birth*

Class 11-14: Contemporary Spoken Word

- Kae Tempest—*Brand New Ancients*

Class 15: Writing Conferences

### Textbook

Kae Tempest, *Brand New Ancients*, ISBN 978-1-4472-5768-4

### Assessment

- Participation (25 points)
- Presentation (25 points)
- Poetry Analysis Essay (50 points)

Total: 100 pts

Other: This class will be conducted entirely in English. Students should already be comfortable with spoken and written English. The goal of this class is NOT to improve English skills.

class	class	米文学特論			担当教員 : Meghan Kuckelman Beverage E-mail: m.kuckelman@meio-u.ac.jp	
	科目名 (英語)	Survey of American Literature				
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	学部棟	研究室	オフィスアワー
					404	Tu 1 Tu 4

### Class content

This course will focus broadly on 20<sup>th</sup> Century American Modernism, defined very loosely as 1910-1945. Poetry and fiction will be considered alongside theoretical texts from both the early and later century. In addition to the “high” Modernist writing of Eliot, Williams, and Pound, special attention will be paid to the Harlem Renaissance and the avant-garde texts of Gertrude Stein and Djuna Barnes.

### Class objectives

- Students will be able to identify and explain the major themes of early 20<sup>th</sup> century literature.
- Students will be able to articulate connections between form, language, and content across multiple genres.
- Students will be able to incorporate literary theory into their understanding of the literary text work and present that understanding in both spoken and written form.

### Class schedule

Class 1: Introductions

Class 2-3: Terry Eagleton, from *Literary Theory: An Introduction*, Ch 1, “The Rise of English”

Class 4-5: 1922-1923— T.S. Eliot, “Tradition and the Individual Talent” and “The Love Song of J. Alfred Prufrock”; Ezra Pound, *Cantos* 1 and 45; Williams, from *Spring and All*

Class 6-7: The Harlem Renaissance—Alain Locke, “The New Negro”; Langston Hughes, “The Negro Speaks of Rivers,” “Negro,” and “The Colored Soldier”; Claude McKay, “If We Must Die” and “America”; Angelina Weld Grimke, “The Black Finger” and “Tenebris”

Class 8-9: WEB DuBois, “Of the Training of Black Men”; Ralph Ellison, “Battle Royal”

Class 10-11: Susan Bordo, “The Body and the Reproduction of Femininity”; Djuna Barnes, “How It Feels to Be Forcibly Fed”

Class 12: John Steinbeck, “The Chrysanthemums”

Class 13-14: Gertrude Stein, *Tender Buttons*; “Composition as Explanation; “Miss Furr and Miss Skeene”

Class 15: Writing Conferences

Class 16: Conclusions

### Textbook

Texts will be photocopied by the instructor.

### Assessment

*Participation 30 points*

- Students will be expected to offer comments and interpretations of the text; ask questions about literary features, context, and language; and to propose topics and themes for each day’s discussion

*Conference Style Presentation 30 points*

- Students will each give a 15-minute presentation about any texts from Class 4-14. The presentation should use the major themes and arguments of the theoretical texts to provide an interpretation of the literary texts.

*Conference Paper 40 points*

- Students will revise the presentation, using the ensuing discussion and comments, into a 2000-word Paper. The paper may include additional secondary research.

*Total: 100 points*

### Note

- This course will be conducted entirely in English, including all reading, writing, and discussion.
- Students who take this course should already be comfortable with written and spoken English communication.

class	class	アメリカ詩特論			担当教員：Meghan Kuckelman Beverage E-mail: m.kuckelman@meio-u.ac.jp		
	科目名 (英語)	Survey of American Poetry					
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	学部棟	研究室	オフィスアワー	
					404	Tu 1 Tu 4	

### Class content

This course will cover two book-length poems from the post-war period of American poetry, broadly referred to as Post-Modernism. The course will introduce students to Post-Modern trends in American literature, focusing specifically on conceptions of subjective experience in poetic texts and how the poetic “I” is formed through language.

### Class objectives

- Students will be able to identify and articulate differences in poetic forms across the 20<sup>th</sup> century.
- Students will be able to articulate connections between form, language, and poetic subject.
- Students will use research to craft an original thesis about a poet’s work and present that thesis in both spoken and written form.

### Class schedule

Class 1: Introductions

#### HOWL

Class 2: Read Howl Part I; Preliminary reactions to the poem; Discussion of form and content.

Class 3: Continue Discussion of Howl Part I

Class 4: Read Howl Parts II, III, and Footnote; Discussion of form and content

Class 5: Continue Parts II, III and Footnote

Class 6: Presentation—Ginsberg’s Defense; Presentation—Contemporary Critical Responses

Class 7: Presentation—The Trial; Presentation—The Six Gallery Reading

#### MY LIFE

Class 8: Read *My Life*, pp. 3-33

Class 9: Read *My Life*, pp. 34-69

Class 10: Read *My Life*, pp. 70-100

Class 11: Presentation—Hejinian, “The Rejection of Closure”

Class 12: Presentation—Silliman, “The New Sentence”

Class 13: Read Spahr, Juliana. “Resignifying Autobiography: Lyn Hejinian’s *My Life*.”

Class 14-15: Writing Conferences

Class 16: Conclusions

### Textbook

Ginsberg, Allen. *Howl and Other Poems* (City Lights Pocket Poets Series) 2001. 978-0872860179

Hejinian, Lyn. *My Life and My Life in the Nineties*, Wesleyan Univ. Press, 2013. 978-0819573513

Other texts will be photocopied by the instructor.



## **Assessment**

### *Participation 30 points*

- Students will be expected to offer comments and interpretations of the text; ask questions about literary features, context, and language; and to propose topics and themes for each day's discussion

### *Conference Style Presentation 30 points*

- Students will each give a 15-minute presentation about either of the class texts. The presentation should offer an interpretation of the text based on the examination of contextual documents provided by the teacher. The student should explain the contextual documents and apply them to the primary text in order to make the interpretation.

### *Conference Paper 40 points*

- Students will revise the conference presentation, using the ensuing discussion and comments, into a 1500- to 2000-word Conference Paper.

*Total: 100 points*

## **Note**

---

- This course will be conducted entirely in English, including all reading, writing, and discussion.
- Students who take this course should already be comfortable with written and spoken English communication. The goal of this course is not to improve English skills.

class	class	アメリカ小説特論			担当教員：Meghan Kuckelman Beverage	
	科目名（英語）	Survey of American Literature			E-mail: m.kuckelman@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	学部棟	研究室	オフィスアワー
					404	Tu 1 Tu 4

### Class content

This course will explore in detail both the conventions and experimentations in English fiction writing. The course will focus on two pieces of American fiction: the novel *Their Eyes Were Watching God* (Zora Neale Hurston, 1937) and the short story collection *Woman Hollering Creek* (Sandra Cisneros, 1991). Specifically, the course will focus on the construction of female subjectivity in traditionally marginalized and borderlands communities within American culture. It will also address the fictional modes of the novel and the short story and consider the ways in which each mode impacts the subject matter of the text.

### Class objectives

Students will be able to:

- identify common narrative techniques and articulate the impact of those techniques on the story's theme
- identify and discuss the impact of innovations and experimentations in narrative
- using research, articulate the cultural contexts influencing the text, both from a theoretical and historical perspective
- write and give a conference-style presentation on a piece of literature

### Class schedule

Class 1: Introductions; Dialect in *TEWWG*; Hurston, "What White Publishers Won't Print"

#### *Their Eyes Were Watching God*

Class 2: Barbara Smith, "Toward a Black Feminist Criticism"; *TEWWG* Chapter 1

Class 3: Chapters 2-4 (Janie's adolescence and marriage to Logan Killicks)

Class 4: Chapters 5-6 (Marriage to Joe Starks; town of Eatonville)

Class 5: Chapters 7-9 (Married life and the death of Joe Starks)

Class 6: Chapters 10-12 (Janie and Tea Cake)

Class 7: Chapters 13-17 (The Everglades)

Class 8: Chapters 18-20 (The Hurricane and the death of Tea Cake)

Class 9: Critical Article

Class 10: *TEWWG* Presentations

#### *Woman Hollering Creek*

Class 11: Selections of *Borderlands / La Frontera* (Gloria Anzaldua); *WHC* "Mexican Movies," "Barbie"-Q," "Mericans"

Class 12: "One Holy Night," "Woman Hollering Creek"

Class 13: "Never Marry a Mexican," "Los Boxers," "There Was a Man, There Was a Woman"

Class 14 *WHC* Presentations

Class 15: Writing Consultation

Class 16: Conclusions

## Textbook

---

- Hurston, Zora Neale. *Their Eyes Were Watching God*. Harper Perennial, 2006. 978-0061120060
- Cisneros, Sandra. *Woman Hollering Creek and Other Stories*. Vintage Contemporaries, 1991. 0-679738568
- Other texts will be posted on the course's Google Classroom.

## Assessment

---

### *Participation 30 points*

- Students will be expected to offer comments and interpretations of the text; ask questions about literary features, context, and language; and to propose topics and themes for each day's discussion. Participation will be assessed via online discussions if the course needs to shift online.

### *Critical Article Introduction and Analysis 30 points*

- Students will each give a 20-minute presentation in which they introduce a critical article about the primary text, including summary, explanation, and interpretation of the text.

### *Conference Paper 40 points*

- Students will write a 1500- to 2000-word analysis of either primary text using one of the critical articles as secondary support.

*Total: 100 points*

## Note

---

- This course will be conducted entirely in English, including all reading, writing, and discussion.
- Students who take this course should already be comfortable with written and spoken English communication. The goal of this course is not to improve English skills.

科目名	地域言語学特論 I			担当教員:	
科目名(英語)	Regional linguistics I			メールアドレス: 研究室電話番号:	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	未開講			

1. 授業の概要  
 琉球諸島で話されている地域言語（琉球諸語とその下位方言）が消滅に危機に瀕していることについて考察する。具体的には、  
 1) なぜ消滅の危機に陥ったのか。  
 2) どのように復興するのか。  
 3) なぜ復興するのか。  
 4) 他の言語との比較  
 を通して消滅の危機に瀕した言語の現状把握と言語復興の研究について学ぶ。

2. 到達目標  
 (1) 琉球列島で話されている地域言語の危機の状況を理解する。  
 (2) 当該言語がなぜ衰退したのかを理解する。  
 (3) 言語復興の意義・方法を理解する

3. 授業の計画と内容  
 第1週 琉球をめぐる言語政策（石原 2010）  
 第2週 琉球諸語研究—現在と将来（第1章）  
 第3週 「言語」と「方言」—本質主義と調査倫理をめぐる方法論的論理（第2章）  
 第4週 日本の琉球諸語と韓国の済州語の国際標準にむけて（第3章）  
 第5週 北琉球諸語の存続力と危機度（第4章）  
 第6週 先島の言語危機と言語存続性（第5章）  
 第7週 琉球諸語の継承を取り戻す—ハワイ語復興運動の例から（第6章）  
 第8週 言語使用領域を維持および復興する（第7章）  
 第9週 琉球諸島における言語作成と導入（第8章）  
 第10週 言語意識を言語使用の変革（第9章）  
 第11週 琉球弧のメディアを巻き込む（第10章）  
 第12週 琉球諸語教育の教材を作るために（第11章）  
 第13週 うちなーぐち継承活動の動向と課題  
 第14週 琉球方言とその記録、再生の試み—学校教育における宮古方言教育の可能性（かりまた 2013）  
 第15週 討論：なぜ琉球諸語を復興するのか

4. テキスト・参考文献  
 下地理則・パトリック ハイブリヒ（編著）（2014）『琉球諸語の保持を目指して 消滅危機言語をめぐる議論と取り組み』ココ出版。

5. 準備学習  
 指定された章を事前に十分に読んでおいて、コメント・疑問などをまとめておく。3時間 x5日間の集中講義となるので、一日に3章読むことになる。集中講義が始まる前に読み終えておくことが望ましい。

6. 成績評価の方法  
 ①教室での討論 30点  
 ②各授業の感想（3回分をまとめて提出する）30点  
 ③レポート 40点  
 合計 100点

7. 履修の条件  
 特になし。

8. その他  
 特になし。

科目名	地域言語学特論Ⅱ			担当教員：仲原 穰 (非常勤講師)							
科目名(英語)	Special Lectures in Area Linguistics II			メールアドレス：j.nakahara@mail.meio-u.ac.jp 研究室電話番号：							
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	集中講義	5	非常勤講師控室	講義終了後/Teams チャット						
<p>1. 講義内容</p> <p>琉球列島の地域言語である「琉球諸語」が消滅の危機に瀕している。言語消滅の危機にある言語は琉球諸語も含め、全世界に2,500言語以上あると言われる。これらのうち、例えばハワイ語は言語復興で良い結果を残している。彼らの復興運動の成功には勝れた教材作成と言語教育プログラムの構築がある。一方、琉球諸語は地域ごとの言語的な特徴が大きく異なるため、教材の作成と言語教育プログラムのどちらもまだ十分とは言えない状況である。琉球諸語の継承や言語復興の現状と課題について学ぶ。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>地域言語の記録・保存、言語復興に必要な教材や教育プログラム等の理解を深め、意見を述べることができる。</p> <p>3. 講義予定</p> <p>第1回 「消滅の危機に瀕した言語」について  第2回 危機言語の言語復興のとりくみ  第3回 危機言語の記録・保存と復興のために必要な教材  第4回 琉球諸語の現状—名称・範囲・区分・危機度  第5回 琉球諸語の教材作成—個人  第6回 琉球諸語の教材作成—沖縄県のとりくみ (その1)  第7回 琉球諸語の教材作成—沖縄県のとりくみ (その2)  第8回 琉球諸語の教材作成—市町村のとりくみ  第9回 琉球諸語の言語復興のとりくみ (実例1) —小学生向け  第10回 琉球諸語の言語復興のとりくみ (実例2) —中学生向け  第11回 琉球諸語の言語復興のとりくみ (実例3) —高校生向け  第12回 琉球諸語の言語復興のとりくみ (実例4) —大学生向け  第13回 沖縄県の記録・保存のとりくみ  第14回 沖縄県の言語復興のとりくみ  第15回 市町村の記録・保存と復興のとりくみ</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>特に指定しない。参考文献は授業のなかで適宜紹介する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>上記3の「講義予定」の内容を事前に学習すること。</p> <p>6. 評価方法</p> <table> <tr> <td>課題レポート</td> <td>60点</td> </tr> <tr> <td>授業時のディスカッション</td> <td>40点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>受講生の研究テーマに応じて、講義内容を一部変更することもありうる。</p>						課題レポート	60点	授業時のディスカッション	40点	合計	100点
課題レポート	60点										
授業時のディスカッション	40点										
合計	100点										

科目名	英文法特論			担当教員:	
科目名(英語)	Special lectures in English Grammar			メールアドレス: 研究室電話番号:	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2				

1. 授業の概要  
英語の文法に関する専門的かつ網羅的な内容の文献を読み、英文法の諸問題を検討する。

2. 到達目標  
研究対象としての「英文法」の諸相に関する知識、関心を深化させる。

3. 授業の計画と内容

第1週	1. Preliminaries, 2. Word classes
第2週	3. Constituents and Phrases (1)
第3週	3. Constituents and Phrases (2)
第4週	4. Basic Clauses (1)
第5週	4. Basic Clauses (2)
第6週	5. Coordination and Embedding
第7週	6. Clausal Variation
第8週	7. Underlying Relationships
第9週	8. Rules and Principles
第10週	9. Sounds and Systems
第11週	10. Phonetic Realization
第12週	11. Word Formation
第13週	12. Words and Sounds
第14週	13. Sounds in Context
第15週	Summary of the class (1)
第16週	Summary of the class (2)

4. テキスト・参考文献  
【テキスト】  
Wardhaugh, Ronald (2012) *Understanding English Grammar*; Second edition, Wiley Blackwell.  
【参考文献】  
講義中に適宜紹介する。

5. 準備学習  
毎回の授業で指名された受講者がテキストの担当範囲を要約し、問題点を指摘するので、各自準備をしておく。

6. 成績評価の方法

クラスでのプレゼンテーション	50点
期末報告レポート（この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する）	50点
合計	100点

7. 履修の条件  
特になし。

8. その他  
特になし。

科目名	英語音声学特論			担当教員： メールアドレス：							
科目名(英語)	Special Lectures in English Phonetics			研究室電話番号：							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2										
<p>1. 授業の概要</p> <p>音声学の前提知識はまったく想定せず、音声学の概要を基礎から学ぶ。調音音声学、音響音声学、知覚音声学を順番に学んでいく。話者がどのように口を動かし音をだすのか（調音音声学）、その動きがどのような空気の振動として現れるのか（音響音声学）、そして聞き手はそれをどのように知覚するのか（知覚音声学）。これらのトピックを受講生の興味に関連付けながら講義する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>楽しく音声学というものを理解し、自分なりの音声学分析ができるようになること。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 序論  第2週 調音音声学  第3週 調音音声学  第4週 調音音声学  第5週 音響音声学  第6週 音響音声学  第7週 音響音声学  第8週 音響音声学  第9週 知覚音声学  第10週 知覚音声学  第11週 知覚音声学  第12週 音声学と社会  第13週 音声学と社会  第14週 音声学と音韻論  第15週 音声学と言語学  第16週 まとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】  『新版 英語音声学・音韻論入門』フィリップ・カー著、竹林滋／清水あつ子訳、2021年3月（研究社）、3520円</p> <p>5. 準備学習</p> <p>授業に積極的に参加すること。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">授業に対する態度</td> <td style="text-align: right;">50点</td> </tr> <tr> <td>期末報告レポート</td> <td style="text-align: right;">50点</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						授業に対する態度	50点	期末報告レポート	50点	合計	100点
授業に対する態度	50点										
期末報告レポート	50点										
合計	100点										



科目名	英語教授法特論 I			担当教員：ノーマン フィーウェル メールアドレス：norman@mail.meio-u.ac.jp	
科目名(英語)	TESOL Theory and Methodology I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定 人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前	10	516	火3
<p>1. 授業の概要</p> <p>英語教授法に関わる分野についての知識と理解を深め、特に英語を母語としない学習者を対象とした英語教授法に焦点を当てる。</p> <p>第二言語教育や外国語教育の歴史を振り返る中で、時代を代表する教授法について、及び教授法の発展について学び、今日、幅広く受け入れられている教授法などについて理解を深める。同時に、英語の4技能を向上させるための過去、現在の教授法について、さらに評価法、教材、授業方法、シラバスなど具体的項目について学習する機会とする。教材は英語で書かれた教材を利用し、授業は殆ど英語で行われる。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>(1) 本コースは、基本的には、将来、英語教育に携わる目的を持って大学院に学ぶ学生を対象とする。</p> <p>(2) 本コースの到達目標は、英語教授法の分野における知識と理解を深めることによって、その専門力を養成すると同時に教授力や英語力を養成、向上することである。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1回 シラバス・授業内容・評価・教材などについての紹介・説明 Chapter 1: An Overview of Language Teaching Methods and Approaches</p> <p>第2回 Chapter 2: Communicative Language Teaching</p> <p>第3回 Chapter 3: Principles of Instructed Second Language Learning</p> <p>第4回 Chapter 4: Syllabus and Curriculum Design for Second Language Teaching</p> <p>第5回 Chapter 5: Teaching English in the Context of World Englishes</p> <p>第6回 Chapter 6: Second Language Listening Comprehension: Process and Pedagogy Chapter 7: Dimensions of Academic Listening</p> <p>第7回 Chapter 8: Second Language Speaking Chapter 9: Fluency-Oriented Second Language Teaching</p> <p>第8回 Chapter 10: Teaching Pronunciation</p> <p>第9回 Chapter 11: Teaching Second/Foreign Language Literacy to School-Age Learners</p> <p>第10回 Chapter 12: Developing Engaged Second Language Readers Chapter 13: Teaching Reading for Academic Purposes</p> <p>第11回 Chapter 14: Practical Tasks for Mastering the Mechanics of Writing and Going Just Beyond Chapter 15: Considerations for Teaching Second Language Writing</p> <p>第12回 Chapter 16: Grammar in Second Language Writing Chapter 17: Teaching Grammar</p> <p>第13回 Chapter 18: Spoken Grammar</p> <p>第14回 Chapter 19: Teaching and Learning Vocabulary for Second Language Learners</p> <p>第15回 Chapter 20: Large-Scale Second Language Assessment Chapter 21: Assessment in Second Language Classrooms</p>					

4. テキスト・参考文献

Title: Teaching English as a Second or Foreign Language, 4th edition  
Authors: Marianne Celce-Murcia, Donna M. Brinton, and Marguerite Ann Snow  
ISBN: 9781111351694  
Publisher: National Geographic Learning/Cengage Learning  
Publication date: 2014

授業内容に合わせて適切な副教材からプリント教材が提供される。

5. 準備学習

授業内容は事前に教材を読んできたものとして、質疑・応答の討議形式で英語で進められるため、課せられた章を予習しておくこと。

6. 成績評価の方法

授業での質疑への応答：50点　課題・小テスト：30点　積極性：20点　合計100点

7. 履修の条件：

英語で書かれた専門書を教材とするため、英語の専門書が理解できる読解力が必要であり、授業内容は英語による質疑・応答の討議形式であるため英語で意見・考えを述べる能力が求められる。

8. その他

特になし

科目名	英語教授法特論 II			担当教員：ノーマン フィーウェル メールアドレス：norman@mail.meio-u.ac.jp	
科目名(英語)	TESOL Theory and Methodology II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定 人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後	10	516	火3
<p>1. 授業の概要</p> <p>英語教授法に関わる分野についての知識と理解を深め、特に英語を母語としない学習者を対象とした英語教授法に焦点をあてる。第二言語教育や外国語教育の歴史を振り返るなかで、時代を代表する教授法について、及び教授法の発展について学び、今日幅広く受け入れられている教授法について理解を深める。また、同時に英語の4技能を向上させるための過去、現在の教授法について、さらに評価法や教材、授業方法、シラバスなど具体的項目について学習する。教材は英語で書かれた教材を使用し、授業は殆ど英語で行われる。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>(1) 本コースは将来英語教育に携わる目的をもって大学院に学ぶ学生を対象とする。</p> <p>(2) 本コースの到達目標は、英語教授法の分野においての知識と理解を深めることによって、その専門力を養成すると同時に教授力や英語力を習得させることである。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1回 シラバス・授業内容・評価・教材などについての紹介・説明 Chapter 22: Tools and Techniques for Effective Second/Foreign Language Teaching</p> <p>第2回 Chapter 23: Lesson Planning in Second/Foreign Language Teaching Chapter 24: English as a Second/Foreign Language Textbooks: How to Choose Them - How to Use Them</p> <p>第3回 Chapter 25: Culture and Pragmatics in Language Teaching and Learning</p> <p>第4回 Chapter 26: Digital Technology in Language Teaching</p> <p>第5回 Chapter 27: Teaching Language Through Discourse</p> <p>第6回 Chapter 28: Content-Based and Immersion Models of Second/Foreign Language Teaching Chapter 29: Task-Based Teaching and Learning</p> <p>第7回 Chapter 30: English for Specific Purposes: International in Scope, Specific, and Purpose</p> <p>第8回 Chapter 31: Literature as Content for Language Teaching</p> <p>第9回 Chapter 32: Approaches to School-Based Bilingual Education</p> <p>第10回 Chapter 33: Motivation and Second Language Learning</p> <p>第11回 Chapter 34: Language Learning Strategies and Styles</p> <p>第12回 Chapter 35: Teaching Young Learners in English as a Second/Foreign Language Settings Chapter 36: Adult Learners in English as a Second/Foreign Language Settings</p> <p>第13回 Chapter 37: Non-Native English-Speaking Teachers in the Profession</p> <p>第14回 Chapter 38: Classroom Research, Teacher Research, and Action Research in Language Teaching</p> <p>第15回 Chapter 39: Reflective Teaching: Principles and Practices Chapter 40: Effective Professional Development for Language Teachers</p>					

4. テキスト・参考文献

Title: Teaching English as a Second or Foreign Language, 4th edition  
Authors: Marianne Celce-Murcia, Donna M. Brinton, and Marguerite Ann Snow  
ISBN: 9781111351694  
Publisher: National Geographic Learning/Cengage Learning  
Publication date: 2014

授業内容に合わせて適切な副教材からプリント教材が提供される。

5. 準備学習

授業内容は事前に教材を読んだものとしての質疑・応答の討議形式であるため課せられた章を予習しておく。

6. 成績評価の方法

授業での質疑への応答：50点　課題・小テスト：30点　積極性：20点　合計100点

7. 履修の条件：

英語で書かれた専門書を教材とするため、それが理解できる読解力が必要であり、授業内容は英語による質疑・応答の討議形式であるため英語で意見・考えを述べることができる英語力が求められる。

8. その他

特になし

科目名	英語教育評価特論			担当教員：渡慶次 正則							
科目名(英語)	Assessment in TESOL			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1.2	前期	10	研512	月曜日 6時限						
<p>1. 授業の概要</p> <p>4技能の評価方法を中心に、評価の妥当性や信頼性、実用性を話し合う。教室や教室外における現在の評価の問題(issues)を取り上げる。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>(1) 英語能力測定の妥当性、信頼性、実用性についての理論と実践を理解する。 (2) 既存の代表的な英語能力テストの分析能力を身に着ける。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1回 オリエンテーション、登録、評価についての issues (Chaps 1&amp;2)</p> <p>第2回 Kinds of tests and testing (Chap. 3)</p> <p>第3回 Validity, reliability, practicality (Chaps.4&amp;5)</p> <p>第4回 Achieving beneficial backwash (Chap.6)</p> <p>第5回 Stages of test development (Chap.7)</p> <p>第6回 Common test techniques (Chap.8)</p> <p>第7回 Testing writing (Chaps.9)</p> <p>第8回 Testing oral ability (Chaps.10)</p> <p>第9回 Testing reading (Chaps.11)</p> <p>第10回 Testing listening (Chap.12)</p> <p>第11回 Testing grammar and vocabulary (Chap. 13)</p> <p>第12回 Testing overall ability (Chaps.14)</p> <p>第13回 Tests for young learners (Chaps.15)</p> <p>第14回 テスト ESP の評価</p> <p>第15回 口頭発表 (TOEIC, TOEFLiBT, 英語検定をいずれかを分析、口頭発表する)</p> <p>4. テキスト</p> <p>【テキスト】</p> <p>“Testing for language teachers (2nd ed.)” CPU</p> <p>【参考文献】</p> <p>「言語テスト作成法」バックマン&amp;パーマー著、大修館書店</p> <p>「英語教育評価論」金谷憲編、桐原書店</p> <p>5. 準備学習</p> <p>事前に、教科書の指定された部分を理解しておく。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>授業参加態度</td> <td>30点</td> </tr> <tr> <td>口頭発表</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>英語能力の高い学生の受講が望ましい。</p>						授業参加態度	30点	口頭発表	70点	合計	100点
授業参加態度	30点										
口頭発表	70点										
合計	100点										

科目名	リサーチ方法特論			担当教員：渡慶次 正則	
科目名(英語)	Research methodology			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1.2	後期	10	研 512	月曜日 6 時限
<p>1. 授業の概要 社会科学や人文科学における質的研究と量的研究の基礎的な知識と技能を身に付け、リサーチプロポーザル完成の支援をするリサーチの概論コース。修士論文の構成や論文作成上の留意点を話し合う。</p> <p>2. 到達目標 (1) 質的研究と量的研究について理解する。 (2) リサーチプロポーザルの基本的なコンセプトを構築できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 オリエンテーション、登録、リサーチ・トピックと概要の発表 第 2 週 リサーチとは、リサーチ・デザイン、リサーチ・クエスション (Chap.1,2,3) 第 3 週 質的研究と量的研究 (Chap.4) リサーチ・プロポーザルの形式 第 4 週 質的研究 (1) (Chaps.8,9) 第 5 週 質的研究 (2) (Chaps.9,10) 質的研究と量的研究の相違 (宿題提出) 第 6 週 統計分析のプランと方法 (descriptive statistics) (Chaps.5,6) 第 7 週 統計 (t-test, ANOVA, chi-square, Pearson's r, など) (Chaps.6,7) 第 8 週 Mixed research design 第 9 週 量的、質的補講、論文構成 (Research Methodology) 第 10 週 量的、質的補講、論文構成 (Results, Discussion) 質的か量的方法によるリサーチ・デザイン (宿題提出) 第 11 週 量的、質的補講、論文構成 (Literature Review) 第 12 週 量的、質的補講、論文構成 (Introduction, Conclusion) 第 13 週 統計処理 (Excel, SPSS) リサーチプロポーザルの提出 (宿題提出) 第 14 週 リサーチ・プロポーザルの発表 (1) 第 15 週 リサーチ・プロポーザルの発表 (2)</p> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 “Introduction to Social Research (2nd ed.)” By Keith Punch, SAGE 社 【参考文献】 「社会調査法入門」 盛山和夫著、有斐閣ブックス</p> <p>5. 準備学習 テキストの課題を事前に読んでおく。</p> <p>6. 成績評価の方法 ・参加 20点 ・質的・量的研究の相違 (課題) 10点 ・質的か量的研究方法によるリサーチ・デザイン 20点 ・リサーチ・プロポーザル 50点 ・合計 100点</p> <p>7. 履修の条件： 前期に、「英語教育評価特論」を受講していることが望ましい。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目名	理論言語学特論			担当教員：	
科目名(英語)	Special Lectures in Theoretical Linguistics			メールアドレス：	
				研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2				
<p>1. 授業の概要 理論研究の対象としての言語に関する知識・関心を深めるために、世界の諸言語の様々な現象について検討する。</p> <p>2. 到達目標 理論言語学の研究に関する方法論を身につけ、世界の諸言語に関する知識・関心を深め、分析の方法論を身につける。</p> <p>3. 授業の計画と内容  第1週 はじめに：理論研究の対象としての言語: The scientific Study of Language  第2週 Diagnostics for Syntactic Structure (1)  第3週 Diagnostics for Syntactic Structure (2)  第4週 Diagnostics for Syntactic Structure (3)  第5週 Diagnostics for Syntactic Structure (4)  第6週 Lexical Projections and Functional Projections (1)  第7週 Lexical Projections and Functional Projections (2)  第8週 Lexical Projections and Functional Projections (3)  第9週 Refining Structures : From One Subject Position to Many (1)  第10週 Refining Structures : From One Subject Position to Many (2)  第11週 Refining Structures : From One Subject Position to Many (3)  第12週 The Periphery of the Sentence (1)  第13週 The Periphery of the Sentence (2)  第14週 The Periphery of the Sentence (3)  第15週 The Periphery of the Sentence (4)  第16週 学期のまとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献  【テキスト】  Haegeman, Liliane (2006) <i>Thinking Syntactically: A Guide to Argumentation and Analysis</i>. Wiley Blackwell.  【主要参考文献】  北川義久・上山あゆみ(2004)『生成文法の考え方』東京：研究社出版  それ以外の参考文献は授業中に適宜紹介する。</p> <p>5. 準備学習 毎回の授業で指名された受講者がテキストの担当範囲を要約し、問題点を指摘するので、各自準備をしておく。</p> <p>6. 成績評価の方法  クラスでのプレゼンテーション 50点  期末報告レポート（この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する） 50点  合計 100点</p> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					



科目名	第2言語習得特論			担当教員：渡慶次 正則	
科目名(英語)	Second Language Acquisition Theory			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1.2	後期	10	研512	月曜日 6時限

### 1. 授業の概要

過去の研究成果から次の点を学ぶ。

- (1) 第2言語がどのような過程で習得され、どんな種類のインプットやインタラクションが習得につながるのか
- (2) 社会的な要因と第2言語習得についての研究成果を学ぶ。
- (3) 第2言語習得の個人差はどのようにして生じるか。

### 2. 到達目標

英語学習者の習得についての基本的な理論や研究成果を理解できる。

### 3. 授業の計画と内容

- |      |   |
|------|---|
| 第1週  | オリエンテーション、登録、言語教授法と第2言語習得の歴史                                      |
| 第2週  | Second Language learning: key concepts and issues (Chap. 1)       |
| 第3週  | The recent history of second language learning research (Chap. 2) |
| 第4週  | The recent history of second language learning research (Chap. 2) |
| 第5週  | The Universal Grammar (Chap.3)                                    |
| 第6週  | Cognitive approaches to SLL (Chap.4)                              |
| 第7週  | Functional/pragmatic perspectives on SLL (Chap.5)                 |
| 第8週  | Input and interaction in SLL (Chap.6)                             |
| 第9週  | Input and interaction in SLL (Chap. 6)                            |
| 第10週 | Socio-cultural perspectives on SLL (Chap. 7)                      |
| 第11週 | Sociolinguistic perspectives (Chap.8)                             |
| 第12週 | Conclusion (Chap. 9)  |
| 第13週 | Individual differences in SLL                                     |
| 第14週 | Focus on form in SLL  |
| 第15週 | Complexity, accuracy and fluency                                  |

### 4. テキスト・参考文献

“Second Language Learning Theories” (2nd edition) Mitchell & Myles ARNOLD

### 5. 準備学習

テキストを事前に読んで準備をしておく。

### 6. 成績評価の方法

- ・講義への参加 30点
- ・課題 70点(Input, interaction, acquisition についてレポート)
- ・合計 100点

### 7. 履修の条件

特になし。

### 8. その他

特になし。

科目名	教育学特論			担当教員：嘉納 英明	
科目名(英語)	Advanced Course of Education			メールアドレス：kano@meio-u.ac.jp	
				研究室電話番号：0980-51-1233	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	3	研510	火2・木3
<p>1. 授業の概要</p> <p>戦後日本の教育学研究の基礎的な文献を分析的に読み進めながら、特に、「問題・論争」となった点について受講生の「発表」を行ってもらい、それをもとに討議を行う。占領下の沖縄の教育（制度）問題も視野に入れる。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>①戦後日本の教育学研究の知見の習得の作業を行い、基礎的な知識を学ぶ。 ②論文作成の基礎技能である、先行研究や一次資料を活用したテキストの作成、読みを図る。</p> <p>3. 授業の計画と内容（予定の変更があり得る）</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週 戦後教育学の論争課題① 第3週 戦後教育学の論争課題② 第4週 教育学の文献紹介① 第5週 教育学の文献紹介② 第6週 沖縄の教育史① 第7週 沖縄の教育史② 第8週 教育学の文献を読む（受講生の発表①） 第9週 教育学の文献を読む（受講生の発表②） 第10週 教育学の文献を読む（受講生の発表③） 第11週 教育学の文献を読む（受講生の発表④） 第12週 教育学の文献を読む（受講生の発表⑤） 第13週 教育学の文献を読む（受講生の発表⑥） 第14週 教育学の文献を読む（受講生の発表⑦） 第15週 教育学の文献を読む（受講生の発表⑧） 第16週 教育学の文献を読む（受講生の発表⑨）及び最終レポート提出</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 なし（適宜資料を配布する）</p> <p>【参考文献】 適宜指示する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>「発表」する学生は事前にレジュメを準備する。他の学生も事前に文献を読み、積極的に討議に参加する。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>活動状況：70点 レポート：30点 合計：100点</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	比較教育文化思想特論			担当教員：嘉納 英明	
科目名(英語)	Comparative Education			メールアドレス：kano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	受講予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	3	研 510	月曜日 10:30～12:00 火曜日 10:30～12:00

### 1. 授業の概要

本授業では、人間の成長・発達に大きな影響を及ぼす教育的営みについて考える。教育という営みは、社会全体の諸事象と密接に関わるものであるから、授業の内容は、まず現代に至るまでの社会における子ども観の変容を概観する。次に、近代の公教育確立以降の教育制度改革と教育権利論、生涯学習社会の到来を導いたラングランの思想を読み解き、今後の日本教育の進むべき方向を考える。

### 2. 到達目標

- ①子ども観の変容の過程について理解することができる。
- ②公教育制度の成り立ちやそれに関わる教育思想について理解することができる。

### 3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 人間形成と教育、人間とは何か、教育の目的
- 第 3 週 子どもの発見—ルソーの『エミール』—
- 第 4 週 現代教育の思想—新教育運動の起こり—
- 第 5 週 教育改革への志向—デューイ—
- 第 6 週 近代教育に対する批判的まなざし—イリッチとフレイレ—
- 第 7 週 小さな大人から子どもへ—アリエスの『<子供>の誕生』—
- 第 8 週 近代公教育と義務教育制度
- 第 9 週 教育の義務から教育を受ける権利へ
- 第 10 週 義務教育制度の今日的課題—通学区域の弾力化—
- 第 11 週 学校選択制と教育バウチャー制度
- 第 12 週 堀尾輝久『現代教育の思想と構造』を読む
- 第 13 週 生涯学習社会に向けて—ラングラン—
- 第 14 週 現在日本における生涯学習社会と学習機会
- 第 15 週 学期末試験

### 4. テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

特定のテキストはない。ただし、毎回、資料（学術論文等を含む）を配布する。

#### 【参考文献】

参考文献は、授業の内容に応じて、適宜、紹介する。

### 5. 準備学習

講義の中で扱う文献は事前に配付するので、熟読しておくこと。

### 6. 成績評価の方法

- |                     |     |
|---------------------|-----|
| ①関連する文献の読み取り、討論への参加 | 20点 |
| ②講義内容に関するレポート       | 30点 |
| ③学期末試験の結果           | 50点 |
| 合計100点              |     |

### 7. 履修の条件

- ①学群・学部の教職科目を複数履修していることが望ましい。
- ②日本や沖縄の教育、歴史、文化に対して関心を持つ者を歓迎する。

### 8. その他

自己の教育体験・教育事情を紹介してもらい、講義内容と重ねて議論することもあります。

科目番号	科目名	東南アジア文化特論		担当教員：坪井 祐司	
	科目名 (英語)	Seminar on SEA culture		y.tsuboi@meio-u.ac.jp 080-8027-5269	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後学期		509	火2、木3
1. 授業の概要					
<p>人文・社会科学の研究の方法論の多くは、欧米社会の分析から発展してきたものである。一方で、アジアには寒帯から熱帯までさまざまな地域があり、社会のあり方は必ずしも一様ではない。授業では、アジアで唯一の熱帯地域である東南アジアの社会をさまざまな角度から検討することで、既存の学問の方法論そのものについて再検討する。テキストの論文集からいくつかの論文を選んでテーマを設定し、それをもとに議論を行う。</p>					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東南アジアという地域について、多角的に理解を深める。</li> <li>・授業における議論を通じて、地域研究の方法論に対する理解を深め、自身の研究に活かす。</li> </ul>					
3. 授業の計画と内容					
第1週	イントロダクション				
第2週	熱帯の自然環境と地域の形成 (1)				
第3週	熱帯の自然環境と地域の形成 (2)				
第4週	環境と人口動態 (1)				
第5週	環境と人口動態 (2)				
第6週	熱帯における農業 (1)				
第7週	熱帯における農業 (2)				
第8週	中間討論				
第9週	東南アジアにおける村落社会 (1)				
第10週	東南アジアにおける村落社会 (2)				
第11週	文化・宗教の交流 (1)				
第12週	文化・宗教の交流 (2)				
第13週	政治と植民地 (1)				
第14週	政治と植民地 (2)				
第15週	総合討論				
第16週	まとめ				
4. テキスト					
<p>テキスト：『歴史のなかの熱帯生存圏：温帯パラダイムを超えて（講座 生存基盤論 1）』（2012、京都大学学術出版会） これ以外の参考文献については、授業時に指示する。</p>					
5. 準備学習					
<p>テキストは事前に配布するので、それを読み、疑問点や論点をまとめてくること。</p>					
6. 成績評価の方法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート 50%</li> <li>・授業への取り組み 50%</li> </ul>					
7. 履修の条件					
とくになし。					
8. その他					
授業の内容は、参加者の関心等に応じて変更の可能性がある。					

科目名	中南米文化特論			担当教員：住江 淳司	
科目名(英語)	Latin American Cultures			メールアドレス：j.sumie@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1228	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研 224	

### 1. 授業の概要

ラテンアメリカは、日本から地理的に最も遠いという理由で馴染みの浅い地域でありました。しかし、世界的に見た場合そのプレゼンスは大きいものです。たとえば経済の規模は東アジアに匹敵しますし、混血社会は対立をはらみながらも人間社会の一つのあるべき姿を代表としています。今日の民族的、宗教的な地域紛争の解決のモデル地域になる可能性を含んでいるかも知れません。また、ラテンアメリカは数多くの独創性に富んだ思想、文学、芸術を生む舞台でもあります。政治、経済、社会研究においても多くの優れた成果を生み出してきました。つまり、我々はラテンアメリカから多くのことを学びえるのです。

### 2. 到達目標

修士論文を執筆する上で、中南米に関する基本的な知識の取得を到達目標とする。

### 3. 講義予定

- 第 1 週 講義概要の説明
- 第 2 週 ラテンアメリカの自然と人
- 第 3 週 ラテンアメリカの開発体制
- 第 4 週 ラテンアメリカの政治と民主化
- 第 5 週 輸入代替工業化とインフレーション
- 第 6 週 対外債務累積問題
- 第 7 週 ラテンアメリカの土地制度
- 第 8 週 労働市場の二重化とインフォーマル・セクター
- 第 9 週 ラテンアメリカの所得分配
- 第10週 工業化と都市化による社会生活の変化
- 第11週 社会格差とスラム問題
- 第12週 カトリック教会と解放の神学
- 第13週 悪化する都市環境
- 第14週 小さな政府（民主化と地方分権化）
- 第15週 ネオリベラリズム

### 4. テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

小池洋一著 『図説ラテンアメリカ』、日本評論社、1999年。

#### 【参考文献】

国本伊代・中川文雄編著 『ラテンアメリカ研究への招待』、新評論、1997年。

### 5. 準備学習

事前に、図書館で中南米に関する基本的文献をレファレンスコーナーで最低10冊探し熟読する。

### 6. 評価方法

期末試験	70点
レポート	30点
合計	100点

### 7. 履修の条件

特になし。

### 8. その他

特になし。

科目名	日本古典文学特論			担当教員：小番 達	
科目名 (英語)	Japanese Classical Literature			メールアドレス：t.kotsugai@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1212	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	研 504	火曜・木曜 4 限目
<p>1. 授業の概要 『平家物語』の注釈的作業を通して、本文分析・批評、受容と享受、資料調査など古典文学研究の基礎的な方法を修得する。また、歴史や思想史など近接学問領域の研究成果にも学びながら、中世文化の体系、とりわけ〈知〉の体系の一端を把握する。</p> <p>2. 到達目標 ①『平家物語』の特質、文学史的位置づけを理解し、説明できる。 ②『平家物語』に関連する作品・資料の内容を理解し、説明できる。 ③『平家物語』が成立・展開した時代の位相を概括的に理解し、説明できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容 第1週 オリエンテーション（報告要領の説明、報告箇所の分担・順番決めなど） 第2週 『平家物語』概説（1）：中世文学の概要 第3週 『平家物語』概説（2）：成立・作者 第4週 『平家物語』概説（3）：諸本 第5週 報告（1） 第6週 報告（2） 第7週 報告（3） 第8週 報告（4） 第9週 報告（5） 第10週 報告（6） 第11週 報告（7） 第12週 報告（8） 第13週 報告（9） 第14週 報告（10） 第15週 総括</p> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】適宜プリントを配付する。 【参考文献】新日本古典文学大系『平家物語 上・下』岩波書店、『延慶本平家物語全注釈 第一～巻十二』汲古書院 *購入する必要なし</p> <p>5. 準備学習 報告資料の作成。</p> <p>6. 成績評価の方法 報告内容 50点 レポート 50点 合 計 100点</p> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 授業の計画と内容は状況に応じて変更することがある。</p>					

科目名	日本近代文学特論			担当教員：小嶋 洋輔	
科目名（英語）	Japanese Modern Literature			メールアドレス：y.kojima@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研 415	木 3・金 2

1. 授業の概要  
日本近現代文学、とくに第二次世界大戦後の文学における「代表作」（本講義では短篇＝芥川賞受賞作中心）を取り上げ、その「研究方法」について学ぶ。とくに、作品が生成された背景を知る「方法」及び、作品の一文字一文字を読む「方法」を知る。小説作品とは書かれた同時代社会の問題が色濃く表れているものであり、社会制度の変遷を小説から読み解くこともその目的とする。具体的には、扱う作品に対して「発表」を行ってもらい、それをもとにして討議を行うものである。

2. 教育目標  
①文化交流に役立つ知識の習得の作業といえる、日本近現代文学を読むうえでの基礎的な知識を学ぶ  
②論文作成の基礎技能である、先行研究や資料を活用したテキストの読みができる。

3. 授業の計画と内容（予定の変更があり得る）  
第 1 週 ガイダンス  
第 2 週 「近代」の「文学」ということ  
第 3 週 文学史まとめ  
第 4 週 扱う小説とその時代：概説①  
第 5 週 扱う小説とその時代：概説②  
第 6 週 太宰治と戦争  
第 7 週 太宰治と戦後  
第 8 週 戦後文学を読む（受講生発表）①  
第 9 週 戦後文学を読む（受講生発表）②  
第 10 週 戦後文学を読む（受講生発表）③  
第 11 週 戦後文学を読む（受講生発表）④  
第 12 週 戦後文学を読む（受講生発表）⑤  
第 13 週 戦後文学を読む（受講生発表）⑥  
第 14 週 戦後文学を読む（受講生発表）⑦  
第 15 週 戦後文学を読む（受講生発表）⑧  
第 16 週 戦後文学を読む（受講生発表）⑨及びレポート提出

4. テキスト・参考文献  
【テキスト】  
なし（適宜プリントなどを配付する）。  
【参考文献】  
なし（適宜プリントなどを配付する）。

5. 準備学習  
「発表」する担当者以外の学生も必ず小説作品を読み、積極的に討議に参加してもらう必要がある。

6. 成績評価の方法  
活動状況：70点  
レポート：30点  
合 計：100点

7. 履修の条件  
特になし。

8. その他  
特になし。



科目名	日本史特論			担当教員：屋良 健一郎	
科目名(英語)	Japanese History			メールアドレス：k.yara@meio-u.ac.jp	
				研究室電話番号：0980-51-1211	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研 402	水2, 木3

1. 授業の概要  
日本史を学ぶ上で重要なことは、史料を読解すること、史料に基づいて思考することである。この講義では、史料をどのように読み、どのような史実（あるいは仮説）を導き出せるのかを考える。

2. 到達目標  
①前近代の史料の読み方を学ぶ。  
②史料に基づいて思考する力を身につける。

3. 授業の計画と内容

第1週	ガイダンス
第2週	古代の文書を読む ―律令国家の仕組み―
第3週	貴族の日記を読む ―平安時代の社会―
第4週	鎌倉時代の文書を読む ―将軍と御家人―
第5週	室町時代の文書を読む ―将軍と守護大名―
第6週	戦国大名の文書を読む ―領国支配の仕組み―
第7週	江戸時代の文書を読む① ―幕府と朝廷―
第8週	江戸時代の文書を読む② ―百姓の暮らし― / 中間試験
第9週	中国・朝鮮の史料を読む ―外国人が見た日本―
第10週	古地図を読む ―前近代の国境―
第11週	歴史書を読む ―後世の人々は歴史をどう記したか― ① 『島津国史』と嘉吉附庸論
第12週	歴史書を読む ―後世の人々は歴史をどう記したか― ② 『中山世鑑』と三山時代
第13週	系図・家譜を読む ―先祖はどう語られたか―
第14週	偽文書を読む ―なぜ「歴史」は作られなくてはならなかったのか―
第15週	まとめ ―様々な史料との向き合い方―

4. テキスト・参考文献  
【テキスト】  
特になし（プリントを配布する）。  
【参考文献】  
講義中に随時紹介する。

5. 準備学習  
翌週の講義で扱う内容をテキストや随時紹介する参考文献を読んで予習しておくこと。

6. 成績評価の方法

活動状況	30点
中間試験	30点
タームペーパー	40点
合計	100点

7. 履修の条件  
特になし。

8. その他  
授業内容は、受講者の関心にあわせて変更することがある。

科目名	沖縄地域文化研究特論			担当教員：照屋 理	
科目名(英語)	Special Issues Culture Studies of Okinawa			メールアドレス：m.teruya@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1231	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研 508	火・木1限
<p>1. 授業の概要</p> <p>現在、沖縄の伝統文化として三線音楽や琉球舞踊、ハーリー（肥龍舟）やエイサーなどがよく挙げられる。本島北部地域では、安田のシヌグ、塩屋のウンガミ、各地のウシデークなどといった無形民俗文化財が挙げられよう。これらは実は近世あるいはそれ以前の古琉球期における農耕、漁撈、航海等に関わる儀礼もしくは派生した文化とされる。</p> <p>古琉球・近世期から続く文化が多く散見される現代沖縄・奄美諸島地域を研究するに重要なアプローチの一つとして、各地で伝承されている古謡や民謡・まじない、説話（伝説やむかし話）などの口頭伝承の解析、あるいはムラ芝居や儀礼舞踊などの民俗芸能の解析がある。古琉球・近世期における人々の様々な活動や心情を活写した口頭伝承や民俗事象を読み解くことなしには、そこから今につながる現代沖縄の地域文化研究は覚束ないものとなる。</p> <p>本特論では、特に沖縄本島北部地域の口頭伝承および民俗事象に焦点を当て、底流する地域の諸相を汲み上げる為の基本的な分析方法を身につけることを目指す。なお、受講生には主体性を求める。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>沖縄本島北部をはじめ琉球文化圏における口頭伝承群について、解釈の手助けとして各種方言辞典や論考等を読みこなす力、および伝承や民俗事象等から様々な情報を汲み上げ分析する方法を身につけることを目標とする。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 登録・オリエンテーション</p> <p>第 2 週 研究基礎事項の確認①（琉球文化・言語史概説 1）</p> <p>第 3 週 研究基礎事項の確認②（琉球文化・言語史概説 2）</p> <p>第 4 週 研究基礎事項の確認③（口頭伝承および民俗事象概説 1）</p> <p>第 5 週 研究基礎事項の確認④（口頭伝承および民俗事象概説 2）</p> <p>第 6 週 琉球・沖縄地域文化研究方法論①（モチーフ・パラレリズム 1）</p> <p>第 7 週 琉球・沖縄地域文化研究方法論②（モチーフ・パラレリズム 2）</p> <p>第 8 週 琉球・沖縄地域文化研究方法論③（モチーフ・パラレリズム 3）</p> <p>第 9 週 研究各論（受講生発表）①</p> <p>第 10 週 研究各論（受講生発表）②</p> <p>第 11 週 研究各論（受講生発表）③</p> <p>第 12 週 研究各論（受講生発表）④</p> <p>第 13 週 研究各論（受講生発表）⑤</p> <p>第 14 週 研究各論（受講生発表）⑥</p> <p>第 15 週 研究各論（受講生発表）⑦</p> <p>第 16 週 研究各論（受講生発表）⑧&amp;レポート提出</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>適宜指示する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>参考文献を事前に読むこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>活動状況 50点</p> <p>課題レポート 50点</p> <p>合計 100点</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>担当教員は特論科目を大学院において本格的な研究方法等を身につける科目と考えている。受講生には徹底的な事前学習・調査を求める。またフィールドワークを課す場合がある。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし</p>					

科目名	琉球歴史学特論			担当教員：屋良健一郎	
科目名(英語)	Ryukyu History			メールアドレス：k.yara@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1211	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前	5	402	月曜2限、木曜3限
<p>1. 授業の概要</p> <p>この講義では前近代の琉球の歴史を、史料を読み解きながら学んでいく。特に日本との外交や文化交流に関わる史料を読むことで、琉球と日本・薩摩との関係がどのような歴史をたどったのかを考察することとする。琉球の歴史を知る上で重要な薩摩の歴史についても積極的に扱う。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>史料の読解を通して琉球と日本の関係史について理解を深める。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週 『隋書』流求伝を読む 第3週 古代の日本と南島 第4週 琉球王国の成立 第5週 地図に見る琉球 第6週 琉球と室町幕府 第7週 薩摩島津氏の歴史 第8週 16世紀の東アジア 第9週 琉球と薩摩① 室町時代 第10週 琉球と薩摩② 戦国時代 第11週 島津氏の琉球侵攻 第12週 為朝の琉球渡来伝説 第13週 江戸立（江戸上り） 第14週 漂着から見た近世の琉球と日本 第15週 近世琉球の日本文化受容</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 特になし。プリントを配布する。</p> <p>【参考文献】 特になし。講義の中で紹介する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>講義で紹介した論文や史料を読んでおくことが望ましい。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>発表（50点）＋ディスカッション（50点）＝合計100点</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>授業内容は、受講生の関心にあわせて変更することがある。</p>					

科目名	琉球文学特論			担当教員：照屋 理	
科目名(英語)	Ryukyu Literature			メールアドレス：m.teruya@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1231	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	10	研 508	火・木 1限

### 1. 授業の概要

琉球とは、かつて琉球国があった時代とその地域、琉球文学とは、基本的に琉球国時代に琉球国内で生まれ、育まれた文学を意味する。具体的に挙げると、オモロ（『おもろさうし』）に代表される呪術文学、奄美・沖縄・宮古・八重山地域で歌い継がれている古謡や琉歌に代表される叙事・抒情文学、そして組踊に代表される劇文学等である。

本特論では、いわゆる日本文学とは異なる琉球文学の特徴や広く文学の普遍性について追究し、最終的には受講生の足元を掘り下げる試みを行う。なお、受講生には主体性を求める。

### 2. 到達目標

- ①琉球文学の独特の発想法・表現法について追究する方法を身につける。
- ②琉球文学の研究を通して、文学の誕生、展開について追究する方法を身につける。
- ③琉球文学の研究を通して、古琉球人の神概念、世界観について追究する方法を身につける。
- ④琉球文学の研究を通して、沖縄語・方言の成立過程について追究する方法を身につける。
- ⑤琉球文学の研究を通して、“文学”の普遍性について追究する方法を身につける。

### 3. 授業の計画と内容

- |        |                                 |
|--------|---------------------------------|
| 第 1 週  | 登録とオリエンテーション                    |
| 第 2 週  | 琉球語の特質（オモロ及び南島歌謡研究のための基礎的事項の確認） |
| 第 3 週  | 琉球文学の全体像について、基礎的理解と研究の方法を学ぶ。    |
| 第 4 週  | 琉球文学研究の歴史的背景                    |
| 第 5 週  | 琉球文学の成立とさまざまジャンルの概要             |
| 第 6 週  | 琉球文学の表記・表現法①                    |
| 第 7 週  | 琉球文学の表記・表現法②                    |
| 第 8 週  | 琉球文学のモチーフの展開                    |
| 第 9 週  | 研究各論（受講生発表）①                    |
| 第 10 週 | 研究各論（受講生発表）②                    |
| 第 11 週 | 研究各論（受講生発表）③                    |
| 第 12 週 | 研究各論（受講生発表）④                    |
| 第 13 週 | 研究各論（受講生発表）⑤                    |
| 第 14 週 | 研究各論（受講生発表）⑥                    |
| 第 15 週 | 研究各論（受講生発表）⑦                    |
| 第 16 週 | 研究各論（受講生発表）⑧&レポート提出             |

### 4. テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

なし。適宜プリント等を配布する。

#### 【参考文献】

『新編 沖縄の文学』（波照間永吉監修 高教組教育資料センター発行）\*購入する必要はない。

### 5. 準備学習

参考文献を事前に読むこと。

### 6. 成績評価の方法

活動状況	50点	
課題レポート	50点	計 100点

### 7. 履修の条件

特になし。

### 8. その他

特になし。

科目番号	科目名	中琉関係史基礎特論		担当教員： 赤嶺 守	
	科目名 (英語)	The History of Sino-Ryukyu Relations		E-mail: m.akamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後		研 225	
1. 授業の概要					
琉球・沖縄の歴史的なターニングポイントは、同時に東アジア社会全体の構造的変動というターニングポイントに重なっている。授業では、そうした東アジア社会の一員としての琉球・沖縄社会における歴史的諸相を詳しく考察する。					
2. 到達目標					
東アジアにおけるコーナーストーンとしての琉球・沖縄の歴史的な位置づけについて理解を深める。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	Introduction : 中国琉球関係史研究序論				
第2週	主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価				
第3週	主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価				
第4週	主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価				
第5週	主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価				
第6週	主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価				
第7週	基礎一次史料の解析及び引用の手法				
第8週	基礎一次史料の解析及び引用の手法				
第9週	基礎一次史料の解析及び引用の手法				
第10週	基礎一次史料の解析及び引用の手法				
第11週	期末研究論文テーマの設定及び学術意義・独創性の検討				
第12週	期末研究論文テーマの理論構築・展開のプロパーザル・指導				
第13週	期末研究論文テーマの理論構築・展開のプロパーザル・指導				
第14週	期末研究論文テーマの理論構築・展開のプロパーザル・指導				
第15週	期末研究論文の最終討論				
4. テキスト					
参考文献：内容が多岐にわたるので、担当教員が授業の前に必要な文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
紹介された授業に関わる文献を受講前に一通り目を通しておくこと。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み（報告、討論等）によって評価する。					
7. 履修の条件					
基礎一次史料については、多くが漢文史料であることから、それを読み込む一定の読解力を有すること。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					



科目番号	科目名	琉球・沖縄文化特論序説			担当教員：波照間 永吉
	科目名(英語)				Email: e.hateruma@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後		研 227	
1. 授業の概要					
<p>琉球語を母語とする奄美・沖縄・宮古・八重山地域は“琉球文化圏”と呼ばれ、歴史的に、日本や中国、東南アジアなど周辺諸国との交流によって、個性的な文化を育んできた。例えば、この地域には、ニライカナイ（海の彼方の万物の淵源の地）という海上他界の観念があるが、同時に、オボツカグラなどの天上他界観もある。さらには地下他界観を有する地域もあり、現実的にはこれらが重層しているといえる。これらの他界観を元に御嶽信仰と呼ばれる固有信仰が発達しているわけであるが、これらの他界観と固有信仰・民俗文化がどのように展開しているかを見定めることは、琉球・沖縄文化と日本および周辺地域の文化との比較研究のために不可欠なことである。本講座では、これら琉球文化圏で創造・享受されてきた文学（首里王府編『おもろさうし』（1531～1623）など）を素材として、この地域の人々が有する他界観・神観念などの民俗文化と想念世界について考えていく。</p>					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で使用する『おもろさうし』や『琉球国由来記』、「(琉球国) 碑文記」など、琉球国時代の文献・金石文資料を読むことをとおして、古琉球以来の沖縄文化の基層にある問題について考える力を養う。</li> <li>・祭祀を実際に見学する機会を積極的にもち、琉球・沖縄の祭祀文化の基本的な構造や特徴を理解するとともに、その社会的意味についても考える力をつける。</li> </ul>					
3. 授業の計画と内容					
第1週 講義の進め方、学習方法について説明。本講座に使う資料について説明する。					
第2週 琉球・沖縄におけると祭祀と文芸（琉球文化圏の固有信仰に、特に、御嶽、神女組織などについて概説する）。					
第3週 『おもろさうし』概説					
第4週 オモロ解読法について①					
第5週 オモロ解読法について②					
第6週 『おもろさうし』に現れた固有信仰①(御嶽)					
第7週 『おもろさうし』に現れた固有信仰②（神）					
第8週 『おもろさうし』に現れた固有信仰③（他界観）					
第9週 『おもろさうし』に現れた固有信仰④（ヲナリ神・女神）					
第10週 『おもろさうし』に現れた固有信仰⑤（ヲナリ神・女神）					
第11週 『おもろさうし』に現れた固有信仰⑥（王府の神女組織）					
第12週 『おもろさうし』の憑霊表現①					
第13週 『おもろさうし』の中の憑霊表現②					
第14週 碑文とオモロからみる古琉球の王府祭儀					
第15週 『おもろさうし』や碑文などからみる古琉球の宗教的世界					
4. テキスト					
【テキスト】					
外間守善『校注おもろさうし』（2000年・岩波書店）					
【参考文献】					
外間守善・波照間永吉『定本おもろさうし』（2002年・角川書店）、外間守善・波照間永吉『定本琉球国由来記』（1997年・角川書店）、外間守善『沖縄の神歌』（1994年・中公文庫）、比嘉康雄『神々の古層』（写真集・全12巻）（1990年～1994年・ニライ社）、比嘉康雄『沖縄 久高島』（1997年・第一書房）、沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』（1995年・角川書店）、外間守善他『南島歌謡大成 I～V』（1980年・角川書店）、玉城政美『南島歌謡論』（1991年・砂子屋書房）、外間守善『南島文学論』（1994年・角川書店）、波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』（1999年・砂子屋書房）、玉城政美『琉球歌謡論』（2010年・砂子屋書房）					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。特に講師（波照間永吉）の既発表論文などによって事前の学習をすること。地域における伝統的祭祀について可能な限り実地に観察する。					
6. 成績評価の方法					
講義時間における知識習得のレベルおよび期末のレポートで総合的に判断する。講義の取り組み（報告、討論等）など平常の受講態度についても評価する。					
7. 履修の条件					
特になし。但し、テキストの準備は万全であること。また、事前学習を十全に行うこと。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	琉球精神文化特論		担当教員：山里 純一	
	科目名(英語)			Email: j.yamazato@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後		研 226	
1. 授業の概要					
南島(奄美・沖縄)の民俗文化について、まじない、星と風、信仰習俗などを主たるテーマとして取り上げる。特有の精神風土に根ざしたまじない習俗について、文献史料の発掘とフィールドワークの成果を活かし、中国・日本との比較も視野に入れながら考察する。また南島の地理的環境がもたらす天文・自然と人々の暮らしについて、さらに中国・日本などの外来文化が受容され独自の展開を見せる民俗文化についても見ていく。					
2. 到達目標					
日本本土と違った南島社会の民俗文化の有り様について知識を深める。 固有の文化と外来文化が織りなす南島の民俗文化について理解する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	オリエンテーション - 南島の民俗文化 -				
第2週	呪文と呪歌				
第3週	呪物と様態				
第4週	文字の呪力と呪符木簡				
第5週	沖縄のフーフダ(符札) ① 種類と機能				
第6週	沖縄のフーフダ② 起源と変容				
第7週	まじないと民俗① 人生儀礼をめぐるまじない				
第8週	まじないと民俗② 建築儀礼とまじない				
第9週	まじないと民俗③ 自然とまじない				
第10週	星と人々の暮らし① 北斗信仰				
第11週	星と人々の暮らし② 農業と星				
第12週	風の用語と伝承				
第13週	天文知識と風の関係				
第14週	外来の神々と信仰習俗				
第15週	『四本堂家礼』と沖縄の民俗				
4. テキスト					
参考文献：山里純一『沖縄のまじない』(ポードーインク、2017)、山里純一『呪符の文化史 - 習俗に見る沖縄の精神文化』(三弥井書店、2004)、山里純一「沖縄における星の信仰」『沖縄民俗研究』34号、窪徳忠『中国文化と南島』(第一書房、1981)、窪徳忠『目でみる沖縄の民俗とそのルーツ』(沖縄出版、1990)、花部英雄『まじないの文化誌』(三弥井書店、2014)					
5. 準備学習					
参考文献に目を通しておく。					
6. 成績評価の方法					
レポートと授業への取り組み(報告、討論等)によって評価する。 レポート(70%) 授業への取り組み(30%)					
7. 履修の条件					
なし					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					